

中村蘭林『寓意録』全文テキスト

(翻刻作成者 山本嘉孝、二〇二六年五月)

【凡例】

○底本 中村蘭林『寓意録』(宝暦十年(一七六〇)序、転写本、書写年・書写者不詳、中野三敏氏旧蔵)

○表記について

- 一、漢字の旧字体は新字体(通行字体)に改めた。
- 一、句読点、清濁を適宜補った。
- 一、訓点・送り仮名・振り仮名は翻字していない。
- 一、割書は「割書…」として示した。
- 一、闕字は相当文字数のスペースで表した。
- 一、明らかな引用箇所は「」を加えて示した。
- 一、各条に番号を付し、番号を□のなかに示した。
- 一、誤字である可能性が高いと考えられる箇所は、底本に朱筆で書き入れられた訂正・校異を参考としながら訂正し、訂正後の字句に黄色ハイライトを施した。
- 一、底本の朱筆書き入りを参考とせず、私に誤字を疑った箇所は、もとの字句を翻刻しつつ、正しいと思われる字句を「○○か」として示し、黄色ハイライトを施した。

一、虫損のために解読不能な箇所は、国立公文書館蔵『寓意録』(転写本、書写年・書写者不詳、請求番号211・0270、昌平坂学問所旧蔵)の本文により補い、水色ハイライトを施した。国立公文書館所蔵本には見られない本文の解読不能な箇所は□で示した。

※本稿は科研費・基盤(B)「近世随筆」の領域横断的研究(課題番号23K21910、代表者・川平敏文)による研究成果の一部である。

【表紙】

〔題簽〕 寓意録 上

【序文】

寓意録序

余幼カリシ時ヨリ書ヲ読コトヲ好テ学ノ窓二年月ヲ送ヌレド、広ク原野ヲ絡テ一禽ヲ得ザル譬ニ似テ、其要約ヲウルニ至ズ。二十余歳ニ及デ、鳩巢室先生ノ門ニ遊、ソノ教誨ヲ受シヨリ、心ヲ経術ニ専ニセシナレドモ、イマダ深工夫ヲ用ズ、猶訓義ヲ事トシ、一二ノ異見モナキニシモ非ズ。既年所ヲ歴シ後、漸ニ大中至正ノ道ハ孔孟ニ止リテ、孔孟未闡トコロノ義理ヲ發明シ、其道ヲ推広ゲルハ、程朱ニ勝ルナク、其學術ノ千古ニ卓越セルコトヲ知ヌ。コレヨリゾ専コレヲ信從シ、深ク義理ヲ研窮センコトヲ期シケル。但旧見ノ未免ニヤ、猶或ハ疑ヲ其間ニナサバルヲ得ザリキ。カ、リケル比、官ノ拔擢ヲ蒙、博士ノ職ヲ以近署ニ侍直シ、且職俸ヲ加賜ヘリ。誠ニ限ナキ御恵ニゾアリケル。然レバ斯道ヲ以少クモソノ恩ヲ報ジ奉リナンコト本意ナレド、元ヨリ学識ニ乏キ身ニテ、又勢ノナシ得ザルナレバ、常ニ素餐ノ責アルヲ愧テ、罪ヲ其職ニ待ヌルコト已ニ十数年ニ及ベリ。既シテ量ズモ脚ノ疾ヲ獲テ步履ニ艱難シ、朝参モナシ得ズアレバ、遂ニソノ職ヲ辞シ奉リ、又請コトヲ得テ骸骨ヲ賜リヌ。近キ比ニ至テハ、朱子ノ教、道体為学ノ両ナガラ備リ、其深切淳実ナル、亦余蘊ナキヲ識テ、愈益コレヲ信ジ、猶是学ヲ励サンヲ欲ス。然レドモ、昨日ト過、今日ト暮テ、明日香川ノ流テ速キ年ナミニアレバ、イツシカニ老モテ往テ、誠ニ古人ノ云ケル日暮途遠トヤランニテ、瘦タル馬ニ鞭ヲアテ、行シニ異ナラズ。ソノ進ザルヲイカンセン。左ハアレド、ヨシ旧学ヲ繹テ晩節ヲ慎、一日アレバ一日ノ当然ヲ尽テ命ヲ俟ナンコソ本意ナレ。幸ニ精神イマダ衰ザレバ、毎ニ同志ノ士ヲ会集シ、共ニコノ道ヲ考窮シ、コノ教ニ切磋シ、正学ノ盛ニ興テ、賢才モ世ニ輩出センヲ冀ゾ涓埃ノ報ジ奉ルトモ云ベケン。頃講習ノ余リ、或ハ感ズル所アリ、或ハ警所アリ、或ハ喻所アリ、或ハ辨ズル所アレバ、其意ノ已ベカラザルマ、ニコレヲ筆シテ、ソノ意ヲコ、ニ寓シヌ。既ニ六十一條ニナリケル。ソノ義ノ浅、ソノ言ノ拙ケレバ、人ニ示シモ恥ベキワザナレド、或ハ一二ノ云得タルコトモアラバ、同志ノ心得ニモナリナンナレバ、姑コレヲ集録シテ上下二卷トナシ、寓意録ト名ヅケリ。若コノ書、幸ニ

遺失セズシテ読ナン人モアリナバ、或ハ其志ノ有トコロヲ想ヤリテ、其取ベキヲ
バコレヲ捨ズ、其誤ヌルヲバコレヲ訂サンコト、仰テ望トコロナリ。

宝曆十年庚辰秋七月朔日

後学 **蘭**林藤原明遠書于

養拙斎中

【上卷】

寓意録卷之上

目録

世変

朱学始行

朱学諸儒

実理

義利

未免血氣

潜思之効

剛毅〔割書…激昂ノコト〕

学問難処

為者常成〔割書…磨針ノコト〕

深志之効

生生之理

名教之樂

晚節難持

愛名

祈天永命

不怠小事

不可滿

心得從容

境從心得

清貧之樂

無実交態

事不可急迫

人家会集

天理人情

所交居

欲外物之好

英傑帰仏

道学者流

間散儒官

目録〔割書…終〕

〔一〕世変

○藤原高光ノ歌ニ、「スエノ世ニナリモテ行ハ橘ノ昔ノ香ニハ似ルベクモアラヌ」ト読ケルゾ誠ニサルコトナレ。何ゴトモ衰ユク世ノアリサマ最嘆シク、上ル代ノミゾ忍ルレ。我　大八洲ノ上世ヲ云ハ、人スナホニ政ト簡易ニテ、無為ノ治トモ云ベケレ。中葉ニナリテ中華ニ通ゼシヨリ、礼楽制度皆コレヲ中華ニ模シテ文物大ニ開ケリ。聖賢ノ道コソ明ナラネド、文華ハ盛ナル国トナリヌ。古ノ国典ヲ読テ知ベキナリ。然ルニ王威ノ衰フル政権臣ノ手ニ出テ、其後墻ニ闘ノ争アリシヨリ、遂武臣ノ国命ヲ制スルニ至リ、天下大ニ変ジテ武家ノ世トナリヌ。室町家ノ末ニナリテ、全戦闘ノ間ニ生テ、人皆僥率桀強ノ習セニ移リ、礼義文物ノ何物タルヲ知ズシテ、衣冠雅飾ナル姿ヲ委弱ト意得、輕悍ニ便利ナルヲ好テ、袍ノ袖ヲタチ、頂ノ髪ヲ剃、常ニ頭ヲアラハニスルヲ無礼ト思ズ、冠帽セザルヲヨロシトスルヨリ、古ノ雅美ナルアリサマモ、見殊ナル儀式モ、皆亡テ、唯纔ニ　天朝ニ耳残り、世ニ慕フ者モ希ニナリユキヌ。古人ノ所謂「オトロヘタル末ノ世トイヘド、猶九重ノ上サビタルアリサマコソメデタケレ」ト云ルモ、ゲニモト思ハレヌ。我　徳川家ノ御代ニナリテ、古ニモ勝ル太平ノ運ニ逢、一統ノ政ニ帰シ、大八洲ノ中ナビカヌ草木モアラデ、四海瀾静ニ、東方ニ朝崇スルコト一百四十年ニ余リ、文化モハヤ開ベキ時ニナレバ、聖学モ古ニスグレテ明ニ開、道ヲトキ、教ヲ施ス程ノ師儒モアマタ出ケリ。然レバコノ聖学ニ於テハ、昔ニモナキ時トコソ知ナレ。左ハアレド、風俗イマダ改ラズ、衣冠制度モイマダ古ニ復ヌコソ太平ノ缺典トゾ云ベケレ。何トナレバ、文運興テ道理モ明ニヒラケヌレド、学問只布衣ニアリテ士大夫以上ニ盛ニナラズ、教ニ出ス事ニ施サバルコトニテ、学問ハ学問、治務ハ治務トニナリテ、學術ハ世ノ間事業トナレル故ニ、古ノアリサマノ勝ルヲモ知ズ、文物興〔典か〕制ノカクアルベキヲモ事トセザレバナリ。コノ上一変シテ學術ノ用ニ行レンハ、只一ノ処置ニゾアリナン。〔割書…下卷ノ末儒流ノ条ニコノ意思ヲ述ヌ。併セ見ルベキナリ。〕唯今ノ世ノ人、古ヲ慕心イサ、カモナフシテ、コノ鄙俗ナル風習ヲ便ナルコトト思ゾ最嘆シケレ。昔、藤原実隆卿ノ「末ノ世ニ生レ逢身ハ昔トテ忍ル程ノ心ダニナシ」ト詠ゼシ、今ノ代モカクコソアリケル。

〔二〕 朱学始行

○今日經学ヲスル者、程朱ノ大功ヲ仰コトハ言ニ及ザルコトナルニ、我 日本
ニテコノ聖学ノ開タルハ百四十年以來ニテ、彼是朱学を広タル師儒アマタ出
ケルモ、ソノ始ヲ云バ惺窩先生ノ功ニゾアリケル。其訣ハ 日本ニ朱子ノ新註
渡タルハ 後醍醐天皇ノ時ニテ、玄惠法印ガ程朱ノ新註ヲ読テ甘心セリト云
コトアリ。又同時ニ、垂水広信モ朱子ノ註ヲ尊信シテ、藤原藤房ニ読ナンコトヲ
ス、メケルコトモ見エタリ。然レドモ中々義理ニ通ジテ聖学ノ味ヲ知ルトハ
思レズ。殊ニソレマデニテ世ニ流布スルニモアラズ。 朝廷ニテハ、只古註ニ
テ解スルト云カタバカリアリテ、世ニ朱註ヲ知ル人モナカリケルニ、惺窩出ラレ
テ大ニコレヲ尊信シテ、四書ノ新註ヲ以講釈ヲナシ、学者ヲ導ケルヨリシテ、朱
子ノ新註ハ行レリ。惺窩ノカク大功アリシモ、全是 東照神祖ノ四書朱註ノス
グレタルコトヲ 聞シメシ、古註疏ヲ用玉ハズ、惺窩ニ命ジテ、新ニ四書朱註ヲ
講ゼシメ、程朱ノ実学ヲ尊ビ玉ヒケルヨリ、惺窩モコノ機会ヲ得テ、トキ広メケ
レバゾ盛ニ世ニ行レタルコトニナリ、朱学ニ精キ先輩モソレヨリシテ出タレ。然
アレバ、神祖ノ御遺恩ナルヲ仰グベキコトナリ。

〔三〕 朱学諸儒

○程朱ヨリシテ、聖学ノ蘊ヲ開キ、義理ノ精ヲ極メ、孔孟ノ道コレヨリゾ天下後
世ニ明ナルコトヲ得タリ。其功ノ盛ナルコト云ガタナシ。然ルニ朱子没セル後、
宋ノ末ニナリテハ、其学意ニ違ヘルトスルモ、或ハコレアリシニ、ソノ正脈ヲ続、
其学ハ居敬窮理ヲ本トナシ、学术ノ正ク、踐履ノ実ナル、又博群籍ヲ極ケル人ハ
真西山ナリ。元ニナリテハ、淳篤ニ朱子ヲ信從シ、ソノ学意ヲ得タル人ハ、許魯
齋ナリ。〔割書：其元ニ仕シコトハ別ニ論說アリ。姑クコ、ニ略ス。〕劉静修モ朱
学ヲ唱ケレド、学意ニソムケルコトアリテ、純正ニ朱学ノ徒トハナシガタシ。〔割
書：ソノ著ハセル原学ノ說ニテモ知ベキナリ。〕明ニ至テハ、薛文清、胡敬齋ノ
一二人ナリ。ソノ理論ノ殊ニ深切ニテ自得ノ味アルハ、文清ヲ勝リトス。ソノ外
ハ朱学ト云ヘドモ、往往ニ議スベキコトナキニアラズ。大抵明ノ中葉以後ハ、經
術ト云ハ皆湛甘泉、王陽明ノ学意ヲ宗トシテ、ソノ見解又各少ノ異同アルナリ。
コレヨリ朱子ノ正学ハ大ニ衰ケリ。但嘉靖ノ比、魏莊渠ノミ、道学ノ名ヲ得タル
人ニハアラザレド、朱子ノ学意ヲ心得ケル処アリテ、ソノ心ヲ実行ニ用テ、深切
ナル論說ドモ多コレアリ。〔割書：莊渠遺書ヲ読テ知ルベシ。〕又朝鮮李退溪ゾ深

ク朱子ヲ信ジ、其学甚純正ニシテ、大ニ朱子ノ路脈ヲ得タル人ナリ。ソノ書牘ヲ
読ニ、議論精切ナル耳ニ非ズ、ソノ語意氣象モ亦朱子ニ似タルナリ。其ヨク学得
ラレケルヲ知ヌベキナリ。サテ経解ノ功ヲ以コレヲ云バ、蔡虚斎ナドノ属ノ人モ
コレアレド〔割書…虚斎ノ学識卓越セザルヨリ、其経解モ説エザルコト往々ニコ
レアレド、亦彼是ヨリ善シト云ベキモノナリ。〕、学脈ノ上ニテハ許ガタキナリ。
方遜志ノ「求学術於三代之後、宋為上。近代有愧」ト云ヒ、葉子奇モ「宋朝理学
之明上接三代。元之道学有所不逮」ト云ヘル、皆程朱ヲ主トシテコレヲ称セルコ
トニテ、ソノ説当レリ。サテ明亡テ後、清朝ニナリテハ、堅異学ヲ禁ジケル故ニ、
天下ノ学者専ラ朱学ヲ勤テ、學術純正ニナリヌ〔割書…或ハ少ノ異説ヲ建ツレバ、
コレヲ刑ニ処スルト聞ヌ〕。世祖ノトキ、康熙年間ニ、朱学ニ傑出ナルトスルハ、
陸其隴、字ハ稼書ト云ケル人、時ニ平湖先生ト称シウ〔テか〕、孔廟ニモ從祀セ
ラレケルトナリ。今ノ乾隆帝ノ諭ニ曰、「昔在皇祖時、如陸其隴輩、學術純正、
言行相符。為一時之望、至今称之」トナリ〔割書…乾隆十一年ニ周学健ガ編スル
成案彙編ノ中ニ詳、カニコノコトヲ記セリ〕。又張伯行モ「陸稼書先生応運而起、
身体力行、折衷至当、則又得朱子之正脈、俾孔孟之道益明」ト称スレバ〔割書…
浦泰ガ著セル四書闡註ノ序中ニコレヲ云ヘリ〕、誠ニ陸氏ハ清朝第一ノ純儒ニゾ
アルナラン。ソノ著述モアマタアリテ〔割書…困勉録、問学録、読朱隨筆ナド云
フ数種アリ〕、ソノ論説精密正確ナルコト多シ。コノ外、経疏ニ於テ精〔精か〕
朱子ノ意ヲ看得タル人ハ呂晚村ナランカ〔割書…四書講義等アリ〕。又近乾隆年
間ニ金壇ノ王步青、字罕皆ト云ケル師儒〔割書…時ニ官翰林院檢討タリ〕、四書
本義匯参ノ一書ヲ著セリ〔割書…大学三卷、中庸六卷、論語二十卷、孟子十四卷、
總四十三卷〕。其朱註ヲ分疏スルニ、専ラ朱子ノ書ニ拠テ、文集・語類ヲ主トナ
シ、精義・或問ヲ以コレニ雜、又諸儒ノ説ヲモコレヲ採ミ輯テ、間ソノ独得ヲモ
コレヲ記セリ。ソノ訂裁ノ精、論説ノ詳ナル、ヨク朱註ノ旨ヲ精研セルト見エタ
レバ、朱註ノ末疏ニ、コノ書ニ勝レルハ、恐ハイマダコレ有ジ。此等ニテモ、清
朝朱学ノ盛ナルコト知ヌベキナリ〔割書…コノ四書匯参、航シ来ルコト甚ダ少ナ
シ。故ニイマダ世ニ流布セズ〕。

〔四〕 実理

○声モナク、臭モナク、万古ノ初ニアリテ、ソノ始ニ始ナク、万世ノ終ニ互テソ
ノ終ニ終ナク、天地造化ノ主宰ナルモノニテ、一元氣ニ離ズ、一元氣ニ雜ズ、所

謂道ノ大原ナル者ニテ、太極ト称スル、是コノ実理ヲ云コトナリ。コノ理ハ、至誠至実ニシテ、日月ノ列張スルモ、コノ実理ノマヽ二万古墜ズ、万物ノ生化スルモ、コノ実理ノマヽ二万古息ズ。ソレ故ニ、鳥ノ轉ルモ、花ノ開ルモ、皆コノ実理ニテ組タテザルハナシ。ソノ初ハ、コノ実理ヨリ是物ヲ生ジ、コノ物トナリテハ、是物ゴトニコノ理ヲ具テ、コノ理ノアリサマ、其物ノマヽ二叶フテアラハル、コトニテ、実理皆ソノ実体トゾナリヌ。其人ニ存スル上モ、是実理ヲ得テ生ズル故ニ、至善ノ理、性ニ具リ、五倫ノ道ヨリ日用万事ノ行ニアラハルモ、皆実理ヨリ当然ノサマニユクニテナキハコレナシ。コレニ由テ聖人ノ教ヲ立ル、コノ実理ヲ品節シテ、コレヲ修メ、是実理ノマヽ二叶シムルガ為ナリ。然アレバ学者ノ志ヲ立モ、実意ヲ下〔旨か〕トシ、講学モ実見ヲ是トシ、コレヲ身ニ修ルモ実践ヲ貴ビ、コレヲ事ニ施モ実用ヲ功トスベキコトナリ。凡天地ノ間、一言以コレヲ括セン。曰実理耳。

〔五〕義利

○凡人ノ事ヲナスニ、義ヨリユクト、利ヨリユクト、此兩ノ条路ナリ。天理ノ宜キマヽ二ナシテユクハ義ナリ。人情ノ我便ニヨキ処ヲ期シテスルハ利ナリ。ソノ義ト利トノ訣、孔孟ノコレヲノ給シ後、漢ノ董子、「正其義、不謀其利」ノ言ヲ述ラレシ卓越ノ見処ニテ、程朱ノ二先生大ニコレヲ称セラレ、朱子コレヲ小学ニ載、学規ニモ取ル。其意、見ベキナリ。ソレ故ニ、程朱毎毎義利ノ弁ヲ論説シ、学者ヲ諭レケリ。張南軒モ人ヲ教ルニ、必先義利ノ間ヲ察セシメリ〔割書…ソノ「無所為而為者義也」ト云ケル語ナド、朱子殊ニコレヲ称セルコトアリ。考ベシ〕。サテ陸象山モ、白鹿洞書院ニ於テ、論語ノ「君子喻於義」章ヲ講説シケルニ、ソノ言精切ニテ甚学者ヲ醒悟セルコトナリ。朱子ソノ跋ヲナシテ、コレヲ称セリ〔割書…コノ外ニ象山、与人書牘ノ中ニ、義利ヲ論ゼシコト数条アリ。象山文集ニ見タリ。考ヘ見ルベキナリ〕。然レバ学者諸賢ノ論説ヲ讀テ、ヨク／＼義利ノ兩路ヲ弁別シ、何事モ義ヲ目当ニシテ為ベキナリ。今鄙意ヲ以ソノアラマシヲ述ナン。凡彼物慾ヲ縦ニシ、非義ノ行ヲナシテ、己ニ私シスルハ、全是道理ニ背テ論ズルニ及ズ。但ソノナスワザハ宜キニ叶テ、私慾ノサマニハアラネド、勝手ニヨキト勝手ニアシキト云処ヨリ趣向ヲ立テスレバ、己ガ為ニ宜ケレバコレヲナシ、宜カラザレバコレヲセザル、是利ト云モノニテ、私ニヲチ、義ニソムクナリ。元利ト云ハ「義之和也」ト易ニアリテ、義ニ叶ヘバ、自然ニヨロシクトゲ

テユクコトニテ、不好ノモノニアラザレド、只利ニ意ヲ付テスレバ、ソレヨリ義ヲ離レテ義ト対スルニ至リ、勝負消長ヲナスナリ。コレ利ノ本然ルニアラデ、人ノ心ヨリ然ラシムルナリ。左アレバ、何事モ道ナリニカクアラデ、叶ザル本分ヲ尽シテ、余念ナク利害ヲ忘テスルコソ義ト云モノナレ。今ソノ事ヲ挙テ云ニ、子タル者、親ニヨク孝ヲスルニ、ソノ愛敬ノヤマレヌ心ヨリ余念ナクコレヲ尽シ、臣タル者、君ニ事ニ其忠実ノヤマレヌ心ヨリ深切ニ奉公スルハ、義ナリ。然ニ親ノ心ニ喜ビラレバ、イトバアハレマレント思テ孝ヲナシ、君ノ意ニ叶バ禄ヲ増ナシ、挙進メラレナント思テ事ルハ、己ガタメニヨキ処ヲ謀テスルコトニテ、利ヨリスルナリ。又古人ノ歌ニテ君ニ事上ヘヲ云ニ、家隆卿ノ「大方ノ秋ノ寐ザメノ長夜モ君ヲゾ祈身ヲ思フトテ」ト読ルハ、我身ヲ思私心ヨリ君ヲ祝奉ルモノニテ、已ヌ実心ヨリノ忠トハ云ガタシ。利スルニ非ヤ。又鎌倉実朝公ノ「山ハサケ海ハアセナン世ナリトモ君ニ心ワガアラメヤモ」ト読ルハ、何ノ意モナク唯君ニ忠節ノ変ズマジキト云コトナレバ、是ハ義ニ当意トモ云ベシ。又出処ノコトニテ云バ、トカク仕ヲ辞シテ退場ト心得テ、後ノ利害ヲ忘テ退ハ義ナリ。ソレヲ若退キナバ害ナカラシヤ、或ハ困窮ニ及ナンヤトコレヲ考テスルハ、利ヨリスルナリ。又人ヲ救コトニテモ、ソレヲ憐、実心ヨリ余念ナクコレヲ恵ハ、義ナリ。若彼ガ喜ビテ我ニ篤センヲ思ヒ、或ハカクアラズハ怨ヲ得ンヲ恐、或ハ人ノ非義センヲ憂テスルハ、利ヨリスルナリ。万事ノ上、皆コノ意得ニテ知ルベキナリ。然レバ心ノ趣向ノ公ト私トノ間ヨリ別ルナレバ、ヨク／＼省察シテ、何ゴトモ義ノ上ヨリ趣向ヲ立ベキナリ。若能私心利害ノ場ヲ脱却セバ、晴天白日ノゴトク往トシテ、天理ノマヽニ義ニアラザルハナカラン。若然ラズバ、一生聖学ヲナシ、口ニハ義理ヲ演説ストモ、身ハ俗学凡夫ヲ免ザルコトニテ、愧ヌベク警ベキコトゾカシ。

〔六〕 未免血氣

○吾儕少ク義理ヲ知ナレバ、事ヲナスニカクアルベキ当然ト意得テ、ソノ義ヲ尽テ外ヲ顧ズ。コレヲスルハ固宜キナレドモ、ソコニ何トナク血氣ノ手伝テスルコトアリ。或ハ人ノタメニ事ヲ謀ヤ、又人ノ困苦ヲ救ナド尋常ノコトナラネバ、一ソレヲ格別ニアラント氣勢ノハヅミヲ以スレバ、ソノコトハ義理ニ中レドモ、血氣ヨリスルニナルナリ。少モ従容ト自然ノナリニセザレバ、義理ノマヽニユクニテナク、血氣ヨリ義理ヲ使ト云ニテ、本意ニアラズ。大抵格別ナルト思テスルコトハ、多クハ血氣ヲ添モノニテ、血氣ノ上ヘヨリスレバ、必怠タユムコトアルモ

ノナリ。ソレヲ義理ノマヽニスレバ、久アレド怠り止コトハナキモノナリ。彼外ノタメニスル私意トハ異レドモ、自然ノ義理ヨリスルトハ同カラズ。又学問ヲスル上モ亦然ナリ。其ノ志ヲ立コトハ、ソノ終ヲ遂ナン、必怠ルマジキト義理ヨリ心ヲ向テスレバ、次第ニ力ヲ用ルホド励ス、ムニ至ド、ソレヲ一ツ氣勢ヲ張、人ニモコエナント、只ソノ英発ノハズミヨリスレバ、初ハ進ントスルノ心深ケレド、イツシカニ氣ニタユミ出来テ怠り止ニ至ルモノナリ。然レバ学問モイキリノハヅミナク、速ニ得ンコヽロナク、ソノ驗ヲ忘レテ、義理ヨリソノ志ヲ立テスレバ、必タユムノ患ナクテ、コレヲ務ルニ随テ功アラシナリ。

〔七〕潜思之効

○論語ニ「唐棣之華、偏其反而。豈不爾思、室是遠而」トアルハ、逸詩ニテ、ソノ意ハ、我人ヲ思其室ノ遠レバ、愈コレヲ思テ不措ヲ云ナリ。夫子コレヲ挙テ、「未之思也。夫何遠之有」トノ給ルハ、人ヲ思フヨリコレヲ道理ヲ思フ上ニ借テ、義理ノ遠シトシテ到ガタキハ、遠キニハアラデ、コレヲ思ノ深カラザル故ナリト示セリ。誠至切ノ教ナリケル。大抵世ノ学者、道理ノ精微ナル処ハ甚至ガタシトスルハ、皆ソノ心ヲ用テ、思ヲ深フセザレバナリ。尚書ノ洪範ニ「思曰睿々作聖」ト云テ思考ヨリ知ノ開テサトリ、ソレヨリ智ノ明ナル聖ニモ至コトヲ述テ、思ヒニ非レバ義理ノ明カニ通ゼヌコトヲ云ルナリ。ソレ故ニ孟子モ「弗思耳」ト云、「思則得之」ト云ル。思ザレハ叶ヌコトヲ見ベキナリ。程子モ「学本於思」ト示シ、又洪範ノコノ語ヲ引テ「致思如掘井」ノ譬ヲ云テ、水ノ初ハ濁テアレド、汲ホド次第ニ清水ノ出ゴトク、思慮スル程、知ノ明カニ開タルコトヲ喻セリ。管子ニ「割書…心術ノ下篇ニ」「思之不得、鬼神教之。非鬼神之力也。其精氣之極也」ト説、又呂覽ニモ「割書…博志篇ニ」「精而熟之。鬼将告之。非鬼告也。精而熟之」トアル、皆コノ意ナリ。凡天地ノ間、事物ニアルソノ当然ノ理ハ、皆人ノ心ニ具リヌレバ、心ヲ用ヒテソノコトニ就テ尋思研窮スレバ、通徹セザルハナキ筈ナリ。然ルニ今ノ学者ハ經書ヲ読ドモ、只文字ノ上ヨリコレヲ合点シテ、ソノ義理ヲ窺ニ思ヒヲ用ルコト浅ケレバ、道理ノ深キニ通ジガタシトスルモ理ナリ。宋ノ儲泳、製墨ノ法ヲ論ジテ云ハ、油炉ニ他藥ヲ入テ黒色ヲ助ルハ宜カラズ。只膠煙ノ外一葉ヲ用ヒズ。煙ノ黒ハ搗練ノ功ニアリ。鉄石臼ノ中ニ入、コレヲ搗コト一二千下スレバ、膠性飴ノ如ニナリヌ。然後ニ鋌ヲナセバ、煙ノ黒色ヲ出、ソノ光焰ヲ發ストナリ。〔割書…コノコト祛疑説ニ見エタリ。〕コレ全ツキ練ヨリ光彩

ヲ出スコトナレバ、今ヒタモノ思ヒヲメグラシ、ネリ研ヌレバ、知識ノ通暢シテ義理ニ発越ヲエンモ亦コノ義ニ異ナラザルナリ。又源重之ノ歌ニ「筑波山ハヤマシゲ山シゲ、レド思ヒイルニハサハラザリケリ」ト読メルモ、思ヒ入ノ深ケレバ、到ヌコトハナキコ、ロナレバ、亦コノ理ニ叶リ。然レバ思ヒ／＼テコレヲ精シ、コレヲ熟セバ、ソノ精義入神ノ場ニモ何ノ到ガタキコトナランヤ。ヨク／＼考ベシ。

○サテ又「唐棣」ノ詩ニ「室是遠而」トアルニ、夫子ノ「未之思也」トノ玉フニ付テ、又学者ノ上ヲ以云ニ、明師良友ヲ尋求、コレヲ講習切磋スルニ、千里ノ遠ヲモ不厭、雨雪ヲ冒テ往モノハ、ソノ人ヲ慕コトノ切ニアリテ、道ニ志ノ深ケレバナリ。然ルニ身ノ暇ナキヲ云ヒ、路ノ遠ヲ云テ、屢交ガタキトスルハ、必ソノ道ニ向心ノ浅、ソノ人ヲ慕フモ深カラネバ、其心ヨリゾ遠シトスルモノナレ。コノ義ヨク／＼察スベキナリ。

「八」剛毅「割書…激昂ノコト」

○古ヨリ中行ノ士ハ甚得ガタクアレバ、聖賢モ其次ヲ求ルニ、必剛毅特立セル人ヲ取り、顔子ハ中行ニモ當ベケレド、ソノ外ハ曾子、子思、孟子ニ到リ、皆剛毅ニ少ク偏ナルト見ル人ニテ、聖人ノ道ヲバ伝得ケリ。朱子ノ世衰道微ニテ、人慾横流スレバ、是剛毅ノ人ニアラデハ脚ヲ立住ルコトナラジト云ルコト、ヨク／＼思ベシ。今ノ世、風俗靡薄ニテ、人皆事ニ軟熟スルヲヨシトシ、少シモ稜角アレバ偏窟ナル者トナシ、只時好ニ従、俗情ニ戻ヌヲ智巧ナルトシテ、利欲ノコトニ屈ヌハナシ。然アラバ何トテカ義理公私ノ弁モ明ナラン。何トテカ大中至正ノ聖学ヲ成得ンヤ。故ニコノ時ニ當テ、聖学ニ志ヲ立テ、コノ道ヲ得ントナラバ、一応謹厚ナルノミニテハ、中／＼足ヲ蹈住得ズシテ、委弱ニナリ、事ニ随ヒ物ニ誘レテ、其志ヲ奪ナンナレバ、必剛ニ偏ナル人ノ時俗ニ屈セズ、一英氣アリテ壁立万仞ニ定リ、一毫ノ利慾ニモ汚染セヌ程ナラバ、コノ学ヲナシ得ンナリ。ヨク／＼勉励ベキコトナリ。サテ又資質ハ元来剛毅ニアラネド、一困難ヲ凌ウルヨリ志ヲ立得ルコトアリ。コレニ比シテ云コトアリ。明ノ孫作ト云ケル人、筆ヲ製スルコトヲ論ジテ曰、崇山絶仞ノ中ノ兎毫ヲ八九月ニコレヲ取バ、毫長ズルコト一寸ニナリ、宜キコトアリ。ソレハ岩石ノ斗絶ナル所ヘソノ兎下リ上リ、ヒタモノ犇突シテ拳身ノ力皆毫ニ聚リ、八九月ニ至リ霜降バ、身ヲ聳シ身ヲ曲テ、コレヲ以寒栗ニ耐レバ、其力愈勁トナリ「割書…コノコト贈筆生張歩序ノ中ニ云リ。明ノ

文〔イ十致〕ニ見エタリ」。今人ノ困患ノ場ヲ凌ギ、志氣ヲ立テ、コレニ奪レズ、コタエヌレバ、其タワマヌヨリ氣勢ヲ生ジ、外物私慾ニモ勝ウルコトニテ、ソレヨリ英発ノ氣長ジ、聖学ヲナシテ道理ニス、ムモ難ラザラン。コレハソノ激昂スルヨリ氣概ヲエテ、志氣ノ愈生ズルナレバ、其ノ道理コレニ近トモ云ベケンカ。ヨク／＼考見ベキナリ。

〔九〕学問難処

○凡学問ノ道、書ヲ読、理ヲ窮ルヨリ、コレヲ己ガ身ニ約シテ、ソノ心術言行ヲ修ルニ、其平易ニテ到ヤスキ処ハ、少キカヲ用レバ、効モアレド、ソノユキ難処ニナリテハ、必止、ソレヨリ進ヲ得ズシテ、怠リユクモノ多コトナリ。畢竟ソノ思ヲ深用ザレバ、其義理ノ難キ処ハ明メ得ズ。マシテ其行ノ上ニ及デハ、ソノ私慾ノ克ガタキ所ハ、殊ニ怠リヌルコト必然ノコトナリ。コレハ唯其ノ志ノ丈夫ニ立ズシテ、剛決ノ氣量ナケレバナリ。ヒタスラニ励シ、力ヲ十分ニ用ヒナバ、難キ所モ踰ユカンコト何ノ疑ヒアラシヤ。程子ノ「如登山麓」ノ譬〔割書…近思錄ニ見エタリ〕、思フベキナリ。又西行法師ノ歌ニ「誰カ又花ヲ尋テ芳野山苔フミ分テ岩ツタフラン」ト読ルモコノ意思ニ叶ヌルナリ。其コ、ロハ芳野山ノ桜花ヲ賞セヌ人モナク、ユキテ看シコトヲ欲セズモナケレドモ、只花ニ思入ノ深カラザル人ハ、ソノ岩ノ險キ苔ムス路ヲバ厭苦ミテ、ソレヲフミ分難キヲ憚ラズシテ、ユクニハアラザランナレ。然レバ誰ゾヤ。思ヒ入ノ深クシテ、ソレヲモ踰ユキテ花ヲ看シモノゾト其希ナルヲ思テ述ルナリ。今道ヲ学モノ、志フカクアラバ、陰シキ山路ヲシノギ往ゴトク、難キ処ヲモ憚ラズシテ励ユカンナレバ、唯ソノ志ヲゾ責ベキナレ。コノ歌ノコ、ロ甚以面白キ意思ナリケリ。ヨク／＼玩ブベシ。

〔十〕為者常成〔割書…磨針ノコト〕

○晏子ノ語ニ「為者常成、行者常至」ト云。又甯戚ノ語ニ「走者之速也、而過二里止。歩者之遅也、而百里不止」ト云ル〔割書…俱ニ説苑ニ見エタリ〕。コノ言玩ブベキナリ。今ノ学者学ザルニハアラザレド、兎角ニ純一ノ志アラデ、勉励ノ力ナキ故ニ、或ハ勤、或ハ怠、引立テスルコトナク、ソノ学多ハ半途ニ止テ、成就スルコトナシ。故ニ二子ノ云ルヤウナレバ、為者ハ為ザルコトナキ故ニヨク至ル。走バ速ナルニ似タレド、怠倦ハ進エズ。歩ハ遅ニ似タレド、ヒタスラユキテ、イツモ止ザルナレバ、遠トテモ到ヌコトハナキ筈ナリ。学ノ道モ亦カクノゴトシ。

昔李太白、象宜山ノ中ニテ書ヲ読ケルニ、学問イマダ成ズシテ去ヌ。其トキ小溪ト云所ヲ過シニ、老嫗アリテ鉄ノ杵ヲ磨ケルニ逢ヌ。コレヲ問ヌレバ、針ヲ作ト云リ。太白ソノ意ニ感ジテ、還テ業ヲ卒リトナリ〔割書…コノコト錦繡万花谷ニ載タリ〕。又近江ノ州ニ磨針山アリ。相伝昔シ或人コヽニ登テ、斧ヲ磨テ針ヲ造シトナリ。コレ等ノコト、ソノ虚実ハ知ザルナレド、鉄ノ杵斧ヲスルノヤマザレバ、針トナルハ理ノアルコトナリ。凡学問スル者モ、他ノ技芸ヲ習者モ、其志ヲ逞フシ、イカヤウニシテナリト学ビ得ント思フテ、怠ラズ止ザレバ、ソノ道ノスヽミ成ヌコトハナキモノナリ。鉄ノ杵斧ハ大ナレドモ、ヒタスラスリヽスレバ、ヘラズヤアルベキ。然アラバ小サキ針ニモ成ヌベケレ。今学者ハ、ソレヲ怠ラズシテ往コヽロナキ故ニ、功ヲ遂ルコトナキナリ。ヨクヽ省ルベキナリ。

〔十一〕深志之効

○昔、良秀ト云シ仏絵師アリケリ。アルトキ、ソノ隣家ヨリ失火シテ、我家モ焼ナントスルニ、貨財ヲモトリ出サズ、妻子ヲモ顧ズシテ、家ノ向ニ立テ、火焰ヲミテ居タリ。家ノ焼ルニウチウナヅキ、トキヽ笑ケリ。人コレヲ怪テ、イカナル心ゾト問ケレバ、年比不動尊ノ火焰ヲアシクカケルナリ。今見レバ、カクコソモエケレト心得ツルナリ、ト云ケリ。其後ニ良秀ガ不動トテ、人モ格別ニ称セリトナリ〔割書…コノコト宇治拾遺、十訓抄等ニ見エタリ〕。今、良秀常ニ火焰ヲカキシニ心ヲ深用ヌレド、思マヽニカキ得ズヤアラン。念慮ニコレヲ忘ヌ処ヨリ火焰ヲ見ントシモ思ツルニアラザレド、ソノ專一ナル心ノ感發シテ、他事ヲ忘テコレヲ見ケルナリ。家財ヲ出スヲモセザルハ放心トモ云ベケレド、左ニハアラズ。火焰ノ絵ニ深切ノ心、純一ニ向ケレバナリ。コレニ因テ、ソノ妙処ヲモ合点シテ、ソノ芸モ進リ。昔年、余ガ知レル優人アリケリ。ソノ芸、等輩ニスグレタル譽ヲエタル者ナリ。或トキ余ニ語シハ、関寺小町ノ扮戲ヲ舞ニ、幾度コレヲナシケルモ、小町老女ノサマナシ。得ガタクシテ、常ヽ心ニ忘レズアリツルニ、アル日、高縄ノアタリヲ竹輿ニ乗テ通りケルニ、向ヒヨリ老衰セル乞女ノ杖ヲツキアユミ来ヲ見ケリ。忽小町ノコトヲ思ヒ合テ、ソノ衰タル有サマ小町モカクコソアラメト思ヒ入シヨリ、ソノ行歩進退ノサマ、カク舞ベキコトト感悟セリ。其後関寺ヲ舞ケルニ、看ル人ゴトニ、小町ノ能、格別ニ達セリト称セリトナリ。コレ亦良秀ニ同ク、其ノ思ヒ入ノ深ケレバコソカクハアリケレ。此等ハ、ソノ見トキニナリテ始テコノ意ノ生ズルニアラズ。平生ノ持養ニアルコトナリ。何トナク

忘ヌ心ノ存スル故ニ、思ズ、知ズ、事ニフレテソノコトニ思ヒヨルモノナリ。コレ等ハ小技芸ナレドモ、サホドニ志ノフカカラザレバ、進ガタキナリ。マシテコノ聖学ハ精微ノ道理ニ預レバ、何トシテカ容易ニ至リ得ベキゾヤ。然ルニ世ノ学者、深切專一ノ志ナク、道ニ思ヒ入ノ浅ケレバ、毎外誘ニ奪テ、進得ヌゾ理ナレ。彼ノ技芸者ヲ見テ愧ベキニアズヤ。今志ヲ純切ニシテ、コレヲ学シナラバ、論語ノ「言忠信、行篤敬」ノ章ニテ其義ヲ想ベキナリ。ソノ「立則見其參於前也。在輿則見其倚於衡也」ト云ル、其忠信篤敬ニ、何ノ形象アリテ目ニサエギリ見エシヤ。コレ只常ニイマダ言ザル、行ハザル時、ソノ心ニ持養スルノ熟処ヨリ、立バ早前ニ參ルゴトクニアリ、輿ニアレバ早衡ニ倚ゴトクニ、ソノ面影常ニコレアルホドナレバコソ、言バ即忠信ヲ得、行バ即篤敬ヲ得ルナレ。若言トキニコレヲ思ヒ、行トキニコレヲ思ニテハ、已発二度リヲクル、コトナリ。スベテ窮理ノ上ヨリコレヲ身ニ修ルニ至テ、ソノ義理ノソノ場ニキラ／＼ト面影ノサエギル程ニアラバ、何トシテカ驗ノナカラシヤ。唐ノ劉晏「見錢流地上」ト唐書本伝ニ見エタリ。朱子コレヲ論ジテ云ク、「想是他計較得熟了。某而今看聖人說話、見聖人之心成片価從面前過」トナリ「割書…語類ニミエタリ」。コレ便念念不忘、ソノ心ノ熟処ヨリ然アルコトナリ。ヨク／＼察スベシ。

〔十二〕生生之理

○水ハ滔々トシテ古流テ不止。人ハ冉冉トシテ終古世ヲナシテ不替。昼夜寒暑ノ推移、人物死生ノ相續、皆至誠ノ理ヨリ氣機ノ循環シテ、生生不息ノアリサマナリ。ソレ故ニ、生ズルアレバ死スルアリ。成ルアレバ毀アリテ、又死シ又生ジ、又毀レ又成ルコトニテ、常ニ新ニ常ニ新ニ行レユクコトニテ、目出度道ノスガタニアラズヤ。然レバ人事ノ居室ヲ営モ、器物ヲ造モ、何ゴトニ付テモ人ガノスル所、即ソノ氣機ノ然ラシムルモノニテ、ソノ成毀ノ遲速アルモ、皆其氣數ニアヅカルコトナレバ、毀ルヲ厭ズシテ再コレヲ成セルコソ当然ヲ尽コトニテ、生生不息ノ理ヲ体ストモ云ベケレ。若コノ理ニクラケレバ、ハナヤカナリシアタリハ人スマヌ野ヲトナリ、カハラヌ住家ハ人アラタマリヌルヲ墓ナキ世ノアリサマト思、人事ノ上ヲ無聊ナルコトト心得テ、営ムベキ居室モカリソメニ作ナシ、或ハ火災ヲ恐テ什器ヲモ畜ザル程ニセル人ハ、物ニ累サレヌヤウナレドモ、生生新新ノ道ニハ叶ヌコトナリ。又唐ノ李德裕ハ、平泉ト云所ニ別墅ヲ營ケルニ、珍木怪石ヲ採アツメテ園池ノ觀ヲナセリ。サテ子孫ヲ戒テ云ケルハ、平泉ヲ醫者ハ吾子

孫ニアラズ。平泉ノ一樹一石ヲ以テ人ニ与者ハ佳子弟ニ非ト。又戒テ、吾百年ノ後、權勢ノタメニ奪レナバ、先人ノ命ナル由ヲ言、泣テコレニ告ヨト云テ、甚コレヲ愛惜シ、永我家ノモノトセントセリ。然レドモ後ニ黄巢ノ乱ヲ経テ、子孫終守コトヲ得ズシテ、花木モ怪石モ洛陽ノ勢力アル人ニ取去レケルトナリ。コレ等ハソノ物ニ執着シ、心ヲ累スコトニテ、成毀変化アル道理ヲ知ザルニテ、愚ナルコトニアラズヤ。二十年以前ノコトニカアリキ。余ガ知ル何某ト云ケル人、アル侯家ニ仕シガ、其侯駿河ノ加番ニユカレシトキ、從ヒ往ケリ。ソノ旅館ノ壁ノ向ニ当テ富士山ノミエケレバ、其壁ヲ開、窓ヲナシテ、常ニコレヲ看ケリ。或人云ケルハ、明年ハ又歸去ニテアレバ、暫ノ間ナルニ、カク窓ヲ造ルハ詮ナキコトニ非ヤト。コレヲ聞テ、サテ／＼ソレハ心得チガヒゾト云ベケレ。一日モコ、ニアレバ、一日ヲ安ズルニテ、明日ハ明日、明年ハ明年ニテアレ。明日去モ、ソレハ不知。今日コノ山ヲ看テ、ソノ静ナルアリサマヲ樂ムナリト云リ。コノ人ゾ誠ニ当然ヲ知ル見識アルトモ云ベキナレ。然レバ第宅ノ今日成テ明日毀モ、今日居テ明日去モ、ソノ当然ノアリサマニテ、何ヲカ期スベキヤ。サテ高廈ノ容易ニ壞マジキモ、一時ノ火災ニテ灰塵トナリ、数百年モ保ベキ程ノ器具モ、ソノ災ニカ、リテ忽ニ亡ルコト、皆ソノ氣数ニ由コトニテ、成モノハ必壞ノ理ヨリ又コレヲ當作セザレバ、叶ヌヤウニナルモ、コレ亦生々ノ道理ニゾアリケル。ソレ故ニ、何事モ、我今日ノ分ニ任セテ、意ヲコレニ寓シ、忘ズ、執セズ、理数ヲ天ニ待ンコソ達者ノ見トモ云ベケレ。

〔十三〕名教之樂

○後漢ノ東平王蒼ノ「為善最樂」ト云ヒ、晋ノ樂広ノ「名教中自有樂地」ト云ルコソ誠ニ至言ナレ。父兄親戚ノ間、愛敬思義ヲ篤スルヨリ他人ノ上ヘニ及モ、皆忠厚信義ヲ以コレニ接リ、或ハソノタメニ事ヲ謀ヤ、或ハソノ窮難ヲ惠救ヤ、総テ何ゴトニヨラズ、道理ニ中タルコトヲ心ガケテ、コレヲ為、業トスルヲ善ヲナストハ云ナリ。又仁義礼讓ノ道ハ、人倫ノ中、不可已秉彝ノマ、ノ当然ナレバ、コレヲ勤行テ、私意人慾ノ氣質ニアヅカル非ヲ懲警テ、心ヲ常ニ義理ノ正キニ涵養ヘバ、名教ノ中ニ居モノトハ云ナリ。カクアレバ、心ノ存スル所ヨリ事ヲ為上、皆義理ノマ、ニアラヌハナケレバ、ソノ心ノ安泰ナルコトニ施スノ和順ナル、少モ外物ヲ待ズシテ、我ヨリ自然ニ樂地ヲウルコトナレバ、ソノ善樂快活ナルコト何カコレニ過ナン。若彼私慾ノ中ニ居ナレバ、貨財ヲ貪リ、名誉ヲ求、酒色放蕩

ノ樂ニ耽、礼義忠信ノ何物ナルヲ知ズシテ、露行フニ意ナク、平生ソノ心ヲ鬪熱場中ニ置テ、安裕ナルニ暇ナク、富榮ヲ得レバ心ニ満テコレニ驕リ、貧困ニナレバソノ氣餒瘁テ憂嘆ヲ免レズ。是ソノ心ノ存スル処、皆外物ニアヅカリテ、何ゴトモソレニ累レヌコトナケレバ、快活ナル樂地ヲ何トシテカコレヲ得ンモノゾヤ。況ソノ放逸ノスギヌレバ、又禍患モ免レザルコトニテ、何カ安トセンヲヤ。然レバ誠ニ天理ニ循ヒユケバ、ソノ心術氣象ノ正大光明ナルコト想ヤラレテ、其安裕ナルコト何ヲ以コレニタトヘン。若人欲ニ任ヌルナラバ、ソノ心頭氣象ノ拘繫局蹙ナルコト亦想ヤラレテ、其危険ナルコトナニカコレニ勝ンヤ。ヨク／＼思ベキコトナリ。

〔十四〕 晩節難持

○凡人ハ晩節ヲ持ヌルコソ最難コトナレ。故ニ明ノ于元時ノ云ル「晩節末路之当畏、更甚於年富力強之可畏。」ト〔割書・願学齋億語ニ見エタリ〕。コノ言、誠ニ然ナリ。何トナレバ、壯年ノトキハ血氣強盛ナル故ニ、身ヲ撿シ私慾ヲ懲テ、放逸ニ到ザルコト、無学俗士トテモ往往ニ守得ルコトアリ。但中年既スギ、漸老境ニナリヌレバ、イツトナク身ノ守リモユルミ、壯ナルトキ慎シ女色ニモ耽、廉ナリシモ貨財ヲ貪ニ至、唯逸樂ヲ好テ、弱比ヨリ人品モ更ニ下ヌルコト頗学ル人ニモ或ハ免レザルコトニテ、尋常ノ人ニハ毎毎コレアルナリ。是ハソノ血氣ノ衰ルヨリ心ノ守リ懦弱ニナリユキヌレバナリ。且或ハ老ヌレバ、死期ノ近ヲ悲嘆シ、今シバシノ世ノ中ト頼ナキ意ヨリ、責テ身ヲ遊樂ニ任セテ一日ヲスギナント思ニテ、カクアルモアリ。コレ皆血氣次第ニナリテ、義理ヨリ存スル志氣ナキ故ナリ。揚子ノ「年弥高而德弥邵〔劬か〕」ト云、後漢ノ馬季長ノ「老当益壮」ト云シヲ以コレヲ觀レバ、勵ノ志氣ナク老ニ到テ、行ノ荒ルコソ恥ベク、又惜ベキコトニゾアルナレ。然レバ義理ニ見処アリテ、一志氣ヲ主トシ、修省ノコ、口怠ズアラバ、老ニナリテ、其血氣ハ衰ヘユクトモ、コノ志氣ハ愈益盛ニテ、志ヨリ氣ヲ率ナバ、血氣モコレニ從テ引立ユキ、身ノ守モ益修ルベキナリ。吾儕少ク聖学ヲ窮テ義理ヲ知ナレバ、氣質ノ變化ニ於テハ万分ノ一モナシ得ザレドモ、セメテ晩節ニ至リ、人品ノ頽ザル程ニハアラマホシケレ。馬氏ノ云ルハ血氣ノ上ヨリ述タルナレド、志ヲ立テ守ル義ハ言得タルコトニテ、コレヲ義理ノ上ヨリ然アラバ、殊ニソノ壯シナルヲ得テ、所謂「德弥邵〔劬か〕」ト云ケルニモ到ヌベキナレバ、コノ処ヨク／＼戒ベキコトゾカシ。

〔十五〕不嘆老

○古ノ人、述懷ノ歌ニ、歲月ノ速ニ移、老ユク身ノ留エデ、墓ナク露ト消ヌルヲ嘆シハアマタアレド、老ヌル時ノ当然ヲ樂メルハコレヲ聞ズ。コレ夭寿不貳シテ命ニ安ジ、天ヲ樂ノ見識ナキ故ニテ、惜ベキコト也。コレニ就テ觀レバ、宋ノ魏野ガ「唯当樂太平、老不惜流年」ト賦セシハ、サスガニ死生ノ理ニ達スル言コソ云ベキナレ。又孫宣公ノ石守道ニ對シテ易ノ離ノ卦九三ノ爻ノ辭ヲ論ジ、サテ云ケルハ、「樂テ以忘憂、自得小人之志。歌而鼓缶、不興大耋之嘆」トナリ。コレ九三ノ辭ニツイテ云ルコトニテ、離ノ前明尽ナントスルトキ、缶ヲ鼓テ、ソノ当然ノ樂ミ、大耋ニナリシヲウチ忘テ、嘆ザルトナリ。サテ――当然ノ理ヲ知ル達者ノ言ナリ。何トナレバ、人ノ生ルヨリ壯ニナリ、ソレヨリ老ニ至リ死スルハ、始アレバ終アル昼夜寒暑ノ行ルト同ク、生生不息ノ道ヨリ然ルコトニテ、揚子ノ所謂「有生者必有死。有始者必有終。自然之道也」トアル、是ナリ。故ニ生ズル、ソノ当然ナリ。死スルモ、ソノ当然ナリ。一日――ト己ヲ修、当然ノ道ヲ尽テ、命ヲ待、安テ逝ヨリ外ノコトナケン。彼ノ壯年ニテ夭折スルハ、年寿ヲ尽サズ死スレバ、遺恨ナキニハアラネド、ソレスラ氣數ノ命ニ安ジテ、悲嘆スマジキコトゾカシ。マシテ老ニ至テ死スルハ、本分ヲ尽スト云モノナレバ、何ゾコレヲ惜コトアラシヤ。或人一首ノ狂歌アリ。「生ケルヨシ死ヌルモヨシヤ世ノ中ハアナタノマヽニ任セコソセメ」ト。ゲニ面白キ意思ニゾアリケル。

〔十六〕愛名

○名ハ実ノ實ト云シコソ老子ノ言ナレドモ、当リト云ベケレ。タトヘバ、コノ形アレバ、必コノ影ノアラハルゴトク、此実アレバコノ名アルコト必然ノ義ナリ。人君ヲ以云ニ、剛明ノ聰斷アレバ英叡ノ名アリ、奢侈ヲ斥レバ崇儉ノ名アリ。士大夫ヲ以云ニ、利祿ヲ貪ザレバ廉潔ノ名アリ、信義ヲ行バ信義ノ名アリ、孝悌ニ篤ケレバ孝悌ノ名アリ。總テ善ノ実アレバ、善ノ名ヲ得ルコト蔽ベカラズ。若惡ノ実アレバ、惡ノ名ヲウルコトニテ、善ノ実ナケレバ、何トテカ善ノ名アラシヤ。故ニ夫子ノ四十五ニシテ無聞トノ玉シモ、人ニ稱セラルベキ善行ナキヲ云テ、名ヲ求ルニハアラネド、名ニ著ルコトヲ述リ。聖人ノ道ヲ名教ト云、忠誼ノスグレタルヲ名節ト云、身ヲ修慎ヲ名檢ト云モ、ソノ実ノマヽニ名ニアラハル、故ニゾカクハ云ナリケル。凡人ノ名ヲ好テ善ヲナサントスルハ偽ナレドモ、名ノ惡カ

ランヲ畏テ身ヲ守レバ、又名ヨリ善ヲスルニテ、名ト云モノヨリ行ヒモス、ムコトアルナリ。世ノ放逸ナル人ハ、或ハ酒色ニ耽リ、或ハ博奕ヲ好、スベテ非義ナル私慾ヲ逞シ、人ノ非義ヲ露憚ル心ナクテ、礼義廉恥孝悌忠信ノ行ヒヲ夢ニモ思ズ。古人ノ所謂忘八ト云ル輩ハ、全是名ヲ畏愛ザルヨリ身ヲ修ザルナリ。一等又ソノ実行アラデ、虚名ヲ炫〔衒か〕求ルコトハ、固アルマジキコトニテ、ソノ虚譽ハ誠ニ行潦ノ水ノ程ナク涸ルゴトク、ヤガテ其実アラハレテ名ハ消ルモノナレバ、カクアルハ大ニ恥ベキコトナリ。范文正公ハ「近名論」ヲ述テ、孔子ノ春秋ヲ作モ、名教ノ書ニテ、善ナル者ハコレヲ褒シ、不善ナル者ハコレヲ貶シテ、後世ノ君臣ニ令名ヲ愛シテ勸、惡名ヲ畏テ慎シムト云リ〔割書…コノ文、范文正集并ニ宋ノ文鑑ニ見エタリ〕。又朱子モ、聖賢ノ教、人ニ善ヲ為ノ実ヲカシメテ名ヲ求シメザレドモ、亦名ヲ逃ヲ以セズト云テ、莊子ノ「為善無近名」ヲ云シヲ非トセリ〔割書…養生主論ニ云リ。朱子文集ニ見エタリ〕。コレ名ヲ求ルニハアラザレド、令名ナキヲ畏、名ニ顯ルコトヲ避ザル、知ヌベキナリ。朱子又「答鄭景望書」ニ「聞深以好名為戒。此固然矣。然偏持此論、將恐廉隅毀頓、其弊有甚於好名者。故先聖云、君子疾沒世而不稱焉」ト云ヒ、又李退溪「答盧伊齋書」ニ「苟欲避名、無為善之路。日趨於頹壞」ト云。又邵伯溫モ「名者治世修身之具也。烏可一日闕於天下。但患不知所以好之耳」ト云。明ノ太祖モ諭群臣テ「古之人知成身之難。恒兢兢自勉惟恐善名之不立。故卒能顯名於天下後世。今之任官者多圖苟安、不顧清議、甘為碌碌之人、身沒而名隨泯。爾等宜勉之」ト云ヘルコレ等ノ言、能く味ベシ。然レバ令名ナキヲ愧ヨリ、名ヲ大切ニ思ヒ、コレヨリ其身ヲ慎修メナバ、惡キフルマヒハ日くニコレヲ警ルニナリテ、自然ニ実ニ行ヲ励スニモナランナレバ、名ヲ愛コソ身ヲ修ルノ第一端トモ云ベケレ。

〔十七〕祈天永命

○凶ヲ避テ吉ニ就コトヲ求、禍ヲ畏テ福ヲ得ンコトヲ思、ヒタスラニ神ニ祈コレヲ願ハ、元ヨリ天命ヲ知ザル俗士ノコトニテ、論ズルニ足ズ。只何ゴトモ天命ト思、永命ヲ天ニ任ルモノハ、吉凶禍福ノ命、天ニアルコトヲ知テ、見解アルコトナレドモ、ソノ天命ハ人事ヲ尽上ニアルコトヲ知ザルナリ。古ヨリ己ヲ修、善ヲ行テ、驕奢ナラズ、放肆ナラザルモノハ、其家必榮テ、災患ナク、子孫モコレヲ守バ、益繁昌スルコトナリ。所謂「天道福善」スルモノナリ。若驕奢放肆ニシテ善行ナク、礼義ヲ失ヒ、唯己アルヲ知り、人ヲ虐スルニ憚コ、ロナキ者ハ、今日

幸ニ富榮ニテ刑戮ヲ免ルトモ、其家必衰替シテ、子孫モ絶ヌルニ至モノナリ。所謂「天道禍淫」ト云モノナリ。コレ天ニ任セテ人事ヲ勤ザル故ナリ。然レバ天ノ必己ニ篤スルハ、コレニ私スルニ非、人事ノ修ル故ニ、天自然トコレニ從コトナリ。ソレ故ニ、天ノ我ニ違ヌコトヲ恃ズシテ、我天ニ合コトアルヲ恃ナリ。夫天ハ即理ナレバ、我行ヒノ義理ニ叶テ善ナレバ、吾心ニアル天ニ合コトニテ、天ノ天、我心ノ天、一道理ナレバ、何トシテカ天ノ加護セザランヤ。但富貴貧賤禍福ノ命、正人トテモ或ハ貧賤ニテ又ハ禍ヲ得、小人トテモ或ハ富貴ニシテ又福アルハ、ソノ受所ノ氣数ニ預ル勢ヒニテ、天理ノ能制シエヌコトアリ。又ハ天ノイマダ不定アヒダニテ、カクアルモアリ。是等ハ天ニ任テ、コレニ居テ、コレニ安ジ、只己ヲ修、人事ヲ尽ス耳ニテ他ナキナラン。コレニ由テ、天ノ永命ヲ祈ルコトハ我ニアリテ、人事ヲ修ル程宜キハナキコトト知ベシ。古人ノ歌ニ「心ダニ誠ノ道ニ叶ナバ祈ラズトテモ神ヤ守ラン」ト読ケル、コノ義ナリ。

「十八」不怠小事

○後漢ノ陳仲舉、一室ニ居テ、庭宇モ蕪穢セリ。父ノ友薛勤ト云ケル人来、仲舉ニ向テ、何トテカ洒掃シテ賓客ヲ待ズヤト云バ、對テ、大丈夫ノ世ニ処ハ天下ヲ掃除スベキナリ。何ゾ一室ヲ事トセンヤト云リ。又宋ノ文天祥モ、間居独坐セルニ、凝塵ノ室ニ滿ルモ睹コトナキゴトシトナリ「割書…文山文集年譜ニ見エタリ」。是ニ子、心ヲ区々タル細事ニ留ズシテ、外物ニ累サレズ、固玩物ノ人ニアラデ、識量ト云ベケレド、然ルニ事ニハ大小アレドモ、道理ニハ大小ナク、洒掃應對ヨリ、皆義理ノ寓スルコトナレバ、小事ナルトテ疎略ニスレバ、其ノ道理ニ缺「欠か」ノアルコトナリ。故ニ一小事モ放過セズシテ、コレヲ尽コソ当然ト云ベケレ。若細事ヲ不顧レバ、所謂「不事事」モノニテ、疎漏ノ処必多アリテ、応事接物ノ間、枯槁虚仮ニナリユキ、ソノ精密ナラヌ処ヨリ大事ヲモ能スルコトハナラヌモノナリ。大抵吾儕疎懶ノ質ナル者ハ、事事怠惰シテ、心ヲ尽サズ、小事ナリトテ苟且ニシ、遁辞ヲ陳仲舉ニ借コト多シ。東坡ノ言ル「人心真不可縱放。間散既久、毛髮許事便自不堪」ト。又古人ノ云ル「人心一懶、則百骸俱怠。百骸俱怠、則心日荒而万事廢矣」ト「割書…筆疇ニ見エタリ」。コレ懶ヨリ心ノ荒ルモノニテ、常ニ警省ルベキナリ。サテ心ヲ細事ニ役スルハ悪ケレドモ、人ノ心ハ又境ニ随フモノニテ、塵芥ヲ看レバ、心清潔ナラズ、花木ニ對シ朗月ニ向バ、心モ爽快ヲ覺ルナルバ、誠ニコノ心、天地万物ノ清氣ト相流通スル故ナリ。然レバ

潔疾アルゴトク、ソレニ累ラハスルハアシケレド、室中ハ清虚灑然タルヲ欲シ、凝塵ヲ掃フコソコレ亦ソノ良心ヲ養ノ一助トモナルベケレ。且吾儕清閑ナル者ハ、事務ナキニ任テ其四肢ヲ惰リ、所謂懶ヨリ心ノ荒ヤスケレバ、間人ナリノ間事業ヲナスベキナリ。読書ノミナラズ、或ハ古人ノ法帖ヲ翻シ、昔年ノ文辞ヲ温、或ハ凡上ノ塵ヲ掃、硯ノ宿墨ヲ洗、或ハ園中ノ花ニ灌、林間ノ葉ヲ掃。体ノ倦ヲ覚ルナラバ、身ヲ蒲団牀上ニ臥シメ、半時モ休息シ、精神爽ナルヲ得レバ、又読書スルニ宜。コレラ高尚家ノ間事業ト云ベキナリ。

〔十九〕不可満

○史記龜策伝ニ云、「天尚不全。故為屋、不成三瓦而防之」ト。説苑ニ云、「宮成則欠隅」ト。胡文定モ亦云ル、「人家事事常有些不足処便是好」ト。昔、長春真人ト云ケル道士アリ。一富家アリテ、新二居室ヲ営テ落成セリ。コノ真人ヲ請招テ、福ヲ祈シメケレバ、真人ソノ室中ニ入テ、一語モナク、持ル鉄杖ヲ以窓戸牆壁ノ上ヲ数箇所毀テ出ケリ。主人怪テ其故ヲ問ヌレバ曰、爾ノ屋、完美セリ。完レバ必毀、理勢ノ常ナリ。吾カク毀ザレバ、爾終ヲ図コトナカラシ。今既ニ毀ツ、又爾ソノ毀ヲ思テ、完センヲナシテコレヲ保ナバ、爾ノ子子孫孫モ、コヽニ歌、コヽニ哭シテ永終ヲ替ザラン、ト云ケル。主人悦ビ服セリトナリ〔割書…輟耕錄ニ見エタリ〕。コレ所謂三瓦ヲ不成、隅ヲ欠トアルコトニテ、至極ノ理ナリ。凡天道ハ満ヲ闕、鬼神ハ盈ヲ惡ト云コトニテ、物極バ必變ズルナレバ、十分ニナレバ、必欠コトアル、自然ノ道ナリ。然ルニ人タルモノ、コレヲ知ズシテ、何ゴトモ十分ヲ期シ、富貴ヲ極メ、榮耀ヲ求ルコヽロ、飽マデ止ズ。家居ニ到テモ、ソノ壯麗ヲ尽シナンコトヲ思。サテ／＼嘆ズベキナリ。世ノ人ヲ見ルニ、才力ニスグレタルモノハ、多ハ貧賤ニアリ。富榮ニ達スルモノハ、多ハ子孫ニ乏ク、或ハ疾病夭折スルアリ。コレ等ニテモ、常ニ天道ノ全ヲ不与コトニテ、翼アル者ハ其足ヲ両ニストアル、コノ理ナリ。唐ノ郭汾陽、第宅ヲ治リ。工人ニ謂曰、好築牆、勿使不牢ト。築者對テ云ケルハ、数十年来、京城官人ノ牆ヲバ皆某ガ築シニ、今某ハ死シ、某ハ亡、某ハ敗、某ハ絶ケリ。人ハ自改リ換テ、牆ハ固恙ナシ、ト。汾陽コレヲ聞テ、心ヲ動セリトナリ。是汾陽ハ、ソノ変化常ナク、物ノ満マジキヲ知ザルヨリ、カク云ルナレバ、築ク者ノ戒ケルコソ至當セリ。何事ノ上モ、カクゾアルベケレバ、文定ノ有不足処ヲ好トセルコソ限ナキ趣ニテモアルナレ。

〔二十〕 心得従容

○昔一禅僧アリケリ。関ヲ鎖テ、一室ノ中ニ住シ、終日ソノ室中ヲ循環経行シ、意ニ随フテ百千里ヲ行テ不窮、徜徉自得セリトナリ〔割書…祿宏ノ竹窓随筆ニ見エタリ〕。コレ一小室ニアリテ、広大ノ趣ヲエタルモノナリ。又余昔年邯鄲ノ扮戲ヲ観ケルニ、優人盧生ナルモノ、三四尺許ナル台上ニアリテ舞ケルニ、ソノ周旋進退シ、手ヲ揚、足ヲ蹈ル、其態従容自在ニテ、広廈ノ中ニテ舞ニモ異ナラズ、少モ狭小拘束ノアリサマナシ。コレ亦広大ノ趣ヲ得タルモノナリ。コノコトヨク／＼思ベシ。彼禅僧ハ、心ヲ修練シテ、物ニ拘束セラレズ、心ノ従容ヲウル者ナリ。優人ハソノ芸ニ長ジテ、身ヨリ従容ヲウル者ナリ。優人ハ容体ノ上ヨリ習得タル驗ニテ、禅者ノ心ノ上ヨリ養得タル驗トハ異ルナレドモ、コレ亦心ニ預ヌコトハナクテ都テ云ハ、共ニ只氣ノ上ノ功ニゾアリケル。若学者ノ義理ヨリ涵養シ得テ、心ニ私慾ノ係累スルナク、心ノ分量義理ノマ、ニ広大ヲ得ナバ、誠ニ天地万物モ皆我度内ニアリテ、其大ナルコト外ナク、自然ニ心広、体胖ナルニ至リ、貧賤憂戚、利害得喪、何ゴトモ心ノ害ヲ為コトヲ得ズシテ、快々活々ニ適トシテ、義理ト俱融會セザルハナケレバ、彼氣上ノ功ニ因者ノ及処ニアラジ。

〔二十一〕 境従心得

○心ハ境ニヨリテ移、又心ヨリ境ヲ生ズル者ナリ。是ハ心ニ主トスル、ナキトアルトニ由コトナリ。今人ノ富榮ニ心アレバ富榮ヲ忘ズ、女色ニ心アレバ女色ヲ忘ズ、ソノ忘ザルナレバ心ヨリ其境ヲ生ジテ、往サキソノ面影アリテ、必コレヲ求得ントセザルナキナリ。一間静ヲ好、山水林泉ニ心アレバ、仮令朝市紛擾ノ地ニ居テモ、ソノ心幽棲ヲ忘ズ、一狭庭ニ一木一石アルモ、心ニ丘壑ノ思ヲナシ、一小池アルモ、江湖渺茫ノ趣ニ異ナラヌナリ。只心ノ至極ソノコトニ思入アレバ、境ハ自境、心ハ自心ニテ、境ニアヅカラヌヨリ心ニ林泉丘壑アレバ、見ル処トシテ林丘ナラヌハナク、ソノ地ヲ蹈ニ替ヌコトゾカシ。然レバタトヒ身ハ間退ニ居テ、山野ニ棲トテモ、心ニ富貴利祿ノ慕忘ザレハ、何カ朝市ニアルニ異ラザランヤ。昔、或人ノ身ハ朝廷ニ仕テ京師ニアリケルニ、一室ヲ構、山居ヲ以ソノ室ヲ名リ。客コレヲ難ジケレバ、吾山ヲ愛スル意ヲ以スレバ、胸次モ灑落ニシテ、身ハ玉堂ノ近ニ居テ、雲嶠万丈ノ想アリ。職ハ献納論思ノ地ニ在、灞橋吟哦ノ色アリト云ケリ〔割書…楊誠齋文集、山居ノ記ニ云リ〕。コレ誠ニ心ヨリ境ヲナスヲ云ルナリ。故ニ林兆恩モ亦曰、「入山以求静者其誠思之。然良心也。而山其心者

良背之義也。若不求良於心而求良於山焉、心豈能靜。心不能靜而曰有得於山者、豈其然乎」ト「割書…性理会通二見エタリ」。是亦ソノ心ニヨルコトヲ云モノニテ、玩ブベシ。サテ劉宋ノ宗少文ト云ケル人、山水ヲ好、遠遊ヲ愛セリ。ソノ後、老疾ニ至、名山モ觀コト難ヲ恐、懷ヲ澄テ、臥ナガラコレニ遊ナントテ、凡遊履スル処ノ山ドモヲソノ室ニ図画シテ覽ケリトナリ。宋ノ呂東萊モ、晚年家ニ在テ一室ニ居ケルニ、山川ヲ周覽スルノ思ヒ止コトアラデ、宗少文臥遊ノ語ニ感ジ、昔人山水ノ勝処ヲ記載スルヲ看タビニ門人ニ命ジテコレヲ筆セシメテ、コレヲ臥遊録ト名ヅケ、コレヲ読テ、神志適スル具トセリトナリ。誠ニ天下ノ名山足迹ノ遍到ヌルハ、遊覽ノマヽナル者トテモ、何トテカコレヲ得ンヤ。然レバ先賢ノ記ヲケル記載ニテ、ソノ名山水ノ景勝ヲ窺ヒ、或ハ名筆ノ写ル画図ヲ看テ、其形象ヲ觀覽セバ、目ノ遇処、神コヽニ遊テ、戸庭ヲ出ズシテ、山水ノ勝モ心ニコレヲ得ンナレバ、臥遊モ何カ真遊ニ替ンヤ。清ノ李笠翁ガ「臥遊山房」ノ詩ニ「枕上看山山有情、江帆雲鳥日從橫」ト云、又「臥遊不弁山深淺、紙上唯聞瀑布声」ト云シモ「割書…笠翁詩集二見タリ。」ソノ心ヨリ真ノ山水ノ趣ヲ得ルコトヲ述タルニテ、亦玩ブベキナリ。

〔二十二〕 清貧之樂

○古人ノ「清貧濁富」ト云シハ、激セル言ノヤウナレドモ、左ニハアラズ。實際ノ語ナリ。大抵士ノ節操ヲ励シ、義理ニ守ノ力ヲ得ルモ、貧ナル境ヨリ修ウルコト多。張子ノ「貧賤憂戚、庸玉汝於成」ト云ルモコノ義ナリ。若富貴ニ居バ、何事モ心ノマヽニ満足ヨリ、ソノ榮耀ニ驕テ、私情ヲ恣ニナシ、人慾モ増盛ニナリ、沈溺ニ至モノナリ。コレ我生ヲ厚シテ、善ヲ修ルノ資ヲナサシムルコトト意エヌルハ、千百ノ中一二ニカアルラン。且富貴ノ相ハ鬨熱紛擾ナレバ、厭ベキコトコレ多ク、貧賤ナレバ、門庭ノ間モ蕭条トシテ事ナク、花草ノ幽致モ自然ノ趣ヲ得、北窓ノ涼風、碧天ノ朗月、皆其情況ヲ悦シムルニナリ。蔬飯苦茗ノ頗飽ヌルヲトル程ノコトニテ、何事モ足ヌガチニテ、少ノ濃郁ナルコトナケレバ、誠ニ富ルハ汚濁セルニテ、貧キハ清潔ナルニ非ヤ。朱子「答黃仁卿書」ニ「示諭食貧之狀、深為嘆息。然從官兩世清貧如此。益見宗法之有傳。足使貧濁知所愧」ト云ル、サテ「味ベキコトナリ。ソノ兩世マデ貧キナレバ、貪求ズ、利祿ニ心ナキコトニテ、ソノ人トナリ想ヤラル、ナリ。ソノ貧キヲ憂ズ、カク称セラルコト、朱子ニ非バ誰力然ランヤ。昔、極テ貧キ人アリケリ。一日厨中ニ米ナカリケレバ、其夕、

妻ナリシ人カクゾト告ヌレバ、明日之事有明日在。且無負梧桐月色也、ト云テコレニ答ケレバ、妻モコノ意ヲ領シテ、相共ニ怡樂セリトナリ〔割書…小窓清紀ニ見エタリ〕。サテく好氣象ト云ベキナリ。世ヲ遯隠ル士ナドハ、殊ニ此心得アリテ、飢渴ノ患ヲ度外ニ置、一日くトソノ当然ヲ樂ベキコトナリ。然ルニソノ貧キ本分ニテ足、一家ノ用度モソノ有無ニ応ジテスレバ宜シキナルニ、一等又貧キヲ厭ヌトスル英氣ノ上ヨリ費用ヲ過シテ、愈ソノ貧ヲ加ルコトアルハ、又義ニ当ヌコトナリ。朱子「答陳廬中書」ニ「聞有用度不足之憂。何故如此。豈非意氣太豪日用間羞言撙節計量之事而又多徇人情 応副乞仮不免虚内事外之弊耶」ト云ル、亦コノ義ナリ。吾儕清貧ナレバ、常ニ用度ノ足ザル答ノコトナルニ、或ハ人情ノ応副ナドニテ、ソノ分ニ過ルヨリ殊ニ窮スルニ至アルハ、当然ニハアラデ、処置ノ義ニ当ラヌコトト云ベケレバ、コノ所ヨクく心得ベキナリ。

〔二十三〕 無実交態

○大凡人ノ交ハ、心ノ誠ヨリ何事モ実意ヲ以ナスベキナレバ、人ノタメニ事ヲ謀モ、一時ノ相待ノ上モ、皆心ノタケヲ尽シ、イツモ替ヌマヽニ、ウラ表ナクソノ言ニ出スモ、有ナレバ有トナシ、無ナレバ無トナシ、成ベキヲバナリナントシ、成ザルヲバナラザラナントシテ、一言ノウキタルナク、偽飾コトナク、心ノマヽニロニ出テ身ニスルワザ、言ニ違ネバ、ソノ言コト皆頼アルナリ。カクアルベキコトナルニ、風俗ノ衰ヘユケバ、事ノ偽リタブラカスヲ露恥コヽロナクテ、今日云シコトノ明日替モ畏ズ、ソレガ世ノ習セトナリ、ロニマカセテ一座ナリニスベヨク云ナスヲカシコシトナシ、跡ヨリソノ偽ノ顯ルヲ顧ズ、彼モカクアレバ此モカクアリテ、人人ノ交リ皆実義ナクテ、ソノ心ノ頼レヌコトニゾナリヌル。ソレト知ナガラモ、交ラザレバ叶ヌ世ノ有サマナレバ、イト嘆シキコトナリケリ。昔、宗良親王ノ歌ニ「偽リノ言ノ葉ニノミ聞ナレテ人ノ誠ノナキ世ナリケリ」ト読ルコソ〔割書…李花集ニ見エタリ〕今ノ世ニ思出ラレケレ。又古人ノ「偽ノナキ世ナリセバイカバカリ人ノ言ノハウレシカラマシ」ト詠ゼシモ、ゲニサルコトニテ、イツカ偽リノナキ世ニカナラン。

○曾禰好忠ノ歌ニ、「冬草ノ枯ニシ人ノ今更ニ雪蹈ワケテ見エン物カハ」ト読ケル、誠ニサルコトゾカシ。凡世ノ交リヲ見ルニ、飲食遊宴ノ場ヨリ一時ノ興ヲ以交ルアリ。或ハ、ソノ物語ナドノ一キワ意氣ニ合ルヲ悦テ、狎親ムアリ。或ハ、其人ノ勢アルヲタノミ、利ノタメヨリ近キ求ルアリ。大抵カクアル類ニテ、交リ

ヲ結ナレバ、元ヨリソノ人ノ賢ヲ扱、友トスル実情ヨリセルニアラザレバ、一言ノ相合ザルカ、一事ノ意ニ違ルコトアレバ、ソレヨリ疏ナリ。屢往来セシモ、イツシカニ遠リユキテ、果ハ行路ノ人ニゾナリヌ。カヽル輩ハ、常ナルトキ、ダニカク頼ガタケレバ、マシテヤ患難困窮ノ時ハ、何トシテ親切ニ尋トヒ、己ガ力ヲ延テ、コレヲ助ンヤ。スベテ人ノ実義ハ、変ナルトキニゾ見ユルモノニテアルナレ。カクカレドヽニナリシ人ノユキ難処ヲ凌テ、雪蹈分テタヅネ問程ノコトハ、何トテカアルベキ。然レバ雪フミ分テモ訪ホドノ実義ナレバ、平生ノ交リハイカバカリカ頼母シキコトニゾアルン。誠ニ然アラバ、詮アル真ノ友トモ云ベキナレ。後柏原院ノ御歌ニ「イカニセン人ノ心ノ二面コノ手ガシハノコノ比ノ世ヲ」トアリシ面友ノアリサマハ、総テカクコソアリケル。古、小野ニ惟高親王ノ世ヲ遁テ住玉ヒケルトキ、業平ノ昔ヲ忘ズ、慕奉テ、雪フカキ路ヲモ厭ズ訪奉リテ、「雪フミ分テ君ヲ見ントハ」ト詠ゼシ、ソノ誠ノ深思ノ切ナル、想ヤラレヌ。今コレヲ翻案シテ、好忠ノカク読ケルモ、世ノシカアラザル人ヲ警ルモノニテ、限ナキ味ヒゾアリケル。

〔二十四〕事不可急迫

○天地ノ間ニハ自然ノ序アルモノナリ。春秋ノ移ユキ、万物ノ生化スルヲ看ルニ、怠ヌルコトナク、急ヌルコトナク、驗ハヲソク見エテ、ハカノユカヌヤウニアルハ、自然ノ処ト知ベキナリ。ソレ故ニ、人ノ事ヲスルモ、其序アルコトニテ、世ニ云雨ダレ拍子ト云モノ、遅ヤウナレド、次第ノヨキ程ニユクモノニテ、自然ノ序ト知ベキナリ。然ルニ世上ノ人ハ何ゴトモイソギテ、少モ遲滞スレバ、心ヲナヤマシモガクコトアリ。イカニイソギナヤムトテモ、自然ノトキニナラザレバ、叶ヌコトニテ、却テ急ヨリ傷ヲトルコト多モノナリ。易ノ需ノ卦ノ待ト云コヽロガ忘ニアラズ、期スルニアラズ、マチアハスト云コヽロニテ、人事ノ上、何事モ皆シカリト思ベシ。昔、二人舟ヲ同シテ、他郷エ往モノアリケリ。一人ハ性急ニシテ、昼夜ニ行程ヲ計、少モ風雨ニ阻ラレテ滞留スレバ、甚コレヲ悩、形容モ瘁ルニナリヌ。一人ハ性緩ニシテ、飲食常ノゴトク、寝ヲ甘ジ、氣和テ、顔色日沢ク、舟ノツクヲ待ケリ。サテ舟ノ岸ニ到トキニナレバ、同時ニ二人共ニ岸ニ登レリ。噪心ノ益ナキヲ省ベシトナリ〔割書…濯旧稿ニ見エタリ〕。コレハ、心ノナヤム耳ニテ、事ニ害ハナケレド、往往ニ急ギテスルヨリ、思ヒノ外ニ為損スルコトアリテ、後悔スルコト多キモノナリ。太田道灌ノ歌ニ「イソガズハヌレザラマ

シヲ旅人ノアトヨリ晴ル野路ノ村雨」ト読ケル〔割書…慕景集二見エタリ〕、誠ニ然ナリ、誠ニ然ナリ。ソノ雨ノ止ルヲ待コ、ロアラバ、何トシテカヌレンヤ。万事ノ上、皆カクノゴトシ。ヨク／＼省思ベキナリ。

〔二十五〕人家会集

○凡人ノ相接テ言語スルニ、寒暄ノ時宜ヲ述、起居ノ安否ヲ問ヌル外ハ、ソノ人ニ益ニナリ、我タメニモヨカラシコトヲ語ベキナリ。故ニ親戚僚友等ヲ会集シ、宴話ヲスルニ、其心得アルベキコトナリ。今世上ノ接リヲ見ルニ、酒食ヲ事トシ、酔飽ニテ興ヲ催シ、若ハ妓樂ナドスルハ、殊ニ論ズルニ足ヌコトナリ。唯情好ノ物語スルニ、皆雑談戯謔シ、或ハ米価ノ高下ヲ論ジ、或ハ女色ノ美惡ヲ評シ、或ハ他人ノ隱惡ヲ訐、或ハ官政ノ得失ヲ議スルナドニテ、一トシテ人ノ益ニナラズ。反テ心術徳義ヲ害スルコト多。昔、朱子ノ弟子劉子澄ハ、与人交ニ、親アル者ニハ必孝ヲスルコトヲ勉シメ、子アル者ニハ必子ヲ教ルノ急務ナルコトヲ告、初メテ仕ル者ニハ必君ニ事、民ヲ沢スルヲ志トスルヲ云。人ノ善ヲ聞テハ樂、コレヲ道テ不已。人ノ過ヲ聞テハ、己ガ身ニアルゴトク痛リトナリ〔割書…言行録外集二見エタリ〕。是便士相見ニ与君言、言使臣云云ト云ルト〔割書…コノ語、小学ニ載ケルナリ〕。趣ヲ同シテカクアレバ、ソノ人ニツキ、皆ソノ人ノタメニナルコトナリ。又、黄勉齋ハ、正月十日、二月二十日ゴトニ、表兄弟ヲ相会、世俗俚下ノ詞、閨中米塩等ノ賤キコトハ、謹デコレヲロニ出スコトナカレト、ソノ会集ノ序ニ云リ〔割書…黄勉齋文集二見エタリ〕。コノ戒モ切ナルコトニテ、外親サヘカクアレバ、本親族ノ間モソノ篤カラシコト推テ知ベキナリ。司馬溫公ノ詩ニ「清茶淡話難逢友、濁酒狂歌易得朋」ト云ル、清茶ノ友サヘ得ガタキナレバ、マシテ道理ヲ談ジ、人ノ益ニナル交会ハ、殊ニ有ガタキコトゾカシ。今二子ノカクアルコト法トスベキナリ。

〔二十六〕天理人情

○天理ハ至テ公正ナレバ、是ヲ是トナシ、非ヲ非トナシ、善ヲ善トシ、惡ヲ惡トスル、違ヌコトニテ少モ曲ラズ直ナル故ニ、人ノ惡事ヲセルヲ蔽ズ、コレヲ顯スハ、道理ノマヽニ直ト云モノナリ。然ルニ父ノ惡事ヲバ子タル者ハコレヲ隱、子ノ惡事ヲバ父タル者コレヲ隱ハ、人倫ノヤマレザル至情ナリ。天理ノ直ニ随テコレヲ顯セバ、人倫ノ至情ニ背、人情ニ随テコレヲ隱セバ、天理ニ背ルニ似タレド、

然ハアラズ。天理ト人情トハ相準ジテ叶モノナリ。何トナレバ、父子相隠スハ人ノ真情ニテ、直カラネドモ、父子ノ上ノ理ハ直キナリ。ソレヲ顕スハ、父子ノ上ノ天理ニ背コトナリ。但シ父ハ子ノ惡事ヲ蔽ト云、至情ナレド、又子ノ大惡不義ヲバ父ハ必コレヲ顕スト云コト、亦天理ナリノ至情ナリ。ソレ故ニ、父ノ子ノ大惡ヲ蔽ヒ、夫ノ妻ノ大惡ヲ蔽ハ、私愛ノ情ヨリスルコトニテ、真ノ至情ニ非レバ、天理ニソムクコトナリ。故ニ天理中ノ人情ハ真ノ人情、人情中ノ天理ハ真ノ天理ナリ。直躬シテ父ヲ証スルハ、人情外ノ天理ニテ、直キコト反テ不直、石碣ガ子ヲ殺ハ、天理ヲ尽シテ私情ナキナレバ、天理中ノ人情ナリ。霍光ガ夫婦相隠スハ、天理外ノ人情ニテ、私意ナリ。然レバ天理人情元来戻ヌコトヨク／＼察スベシ。サテ広推テ云フニ、道理ハカクアル筈ノコトニテ、人倫ノ間ニ又忍ラレヌ真情アリテ、人情中ノヤマレヌヨリ直ニ天理ニ叶テユクコトアリ。コノコト曲折多レバ、姑コ、ニ略ス。

○サテ今ノ人、常ニ云、人情ニハ背レヌコトナリト。但ソノ人情ヲ主トスルヲミルニ、大抵真ノ人情ニハアラデ、物慾ニ随テユク世上ノ情ナリ。故ニソノ背ヌヲ厚キコトトスレドモ、只時俗ニ周旋スル心ヨリ、人ノ喜ヲ欲シ、人ノ嗔ヲ畏ルコトニテ、畢竟自私シ自利スル念頭ナレバ、總テ私慾ニ歸スルナリ。大略時俗ノ情ニ戻ルト見エネバ、真ノ人情ニハアラズ。唯真ノ人情ノ安当ナル処、即天理ニテナキハナケレバ、今ノ時俗ノ人情ト心得タルハ、天理外ノ私情ナリト思フベキナリ。

「二十七」所交居

○人ハ君子賢者ト共ニ居コソ幸ナルハナク、小人不肖者ト居ホド不幸ナルハナシ。何トナレバ、君子トヲレバ、小過ヲモ大過ト覺、小人トヲレバ、小善ヲモ大善トスルニ至。コレハ衆ノ君子ノ間ニアレバ、見ル所、聞所、皆善ニテアレバ、己ニ少ノ過アレバ、百清ノ中ニテ一濁ヲ見ルコトニテ、人必コレヲ怪トナス故ニ、恐懼シ、省テ、吾非ヲ改ザレバ、人ノ容ヌニナリテ、善ニス、ムコト速ナリ。若若、衆ノ小人ノ間ニアレバ、見ル所、聞トコロ、皆不善ニテアレバ、己ニ少ノ善アレバ、百濁ノ中ニテ一清ヲ形スコトニテ、人必コレヲ高トスル故ニ、少ノ善モ自以大ナリトナシ、ソノ善ナシ易クテ、善ニス、ムコト難、怠ノ基トナルナリ。然アレバ、惡ニハ従ヤスク、私ニ流ヤスキヨリ、日日ニ小人ニ染テ、イツシカニ小人ノ域ニ入、後ハ小善モナキコトニゾナリヌ。荀子ニ「蓬在麻中。不助而自直」

シト云ル、コレ衆君子ノ間ニアレバ、ソノ善ニ化シテ、イツシカニ小人モ君子ニナルコト、誠ニ麻ノ中ノ蓬ゾカシ。又、平泰時ノ歌ニ「世ノ中ニ麻ハアトナクナリニケリ心ノマヽノヨモギノミシテ」ト読ケル、コレ世ニ小人多レバ、君子モノノ惡ニ化シ、守ヲ失フテ、イツシカニ小人トナリヌルコト、麻ノアトナクナリケルガゴトシ。畏ベケレ、畏ベケレ。サテ学者ノ友ヲ得テ問学ニ討論スル上モ、己ニ勝ル者ト交レバ、己ガ足ザルヲ見テ、励ス、ムニナリ。劣ル者ト交レバ、己ガ長ズル処ノミ見エテ、短ナルトコロ見エザル故ニ、ソノ学ス、マヌコトナリ。然レバ人ト共ニ居モ、学者ノ友ヲトルモ、スグレタル人ヲ求ベキコト、第一ノ心得ニゾアルナレ。

〔二十八〕 欲外物之好

○宋ノ朱新仲ガ「詠王昭君」詩ニ「顔色如花心糞土」ト云ル句アリ。余コレヲ読テ感ズルコトアリ。大凡世ノ士大夫、只ソノ外貌ノ好ランコトヲノミ事トシテ、辺幅ヲ飾リ、顔色ヲ巧シ、一言語ノ上モ人ニ喜慕レ、時情ニ背ヌヤウニ為テ、或ハ権貴ノ家ニ馳走スレバ媚諂フ。カシコキワザトシテ、其心ノアル所ハ利禄富榮ヲ得ンヲ主トシ、理義ノ貴ベキヲ知ズ、忠信廉恥ノ修ベキヲ忘ヌレバ、ソノ心術ノ蕪穢セル、誠ニ糞土トモ云ベケンナレバ、所謂「色莊者」ノ殊ニ下ルモノニアラズヤ。サテ又外ニ心ヲ重ズルヨリ、凡身ニ奉ズル所ノ居室衣服ヲ初トシテ、凡百ノ器玩ニ至マデ、ソノ美麗ヲ事トシ、力ニ随テコレヲ營ナシ、コレヲ以人ニ驕リ、少モ人ニ劣ルアレバ、甚コレヲ恥トナシ、独ソノ身心ノ私慾ニ汚テ、不善ナル行ノ人ニ対シテ不可言アルヲバ露ハヅルコトナク、人ノ非笑ヲ顧ズシテ、身心ノ好シコトヲ思ザルハ、倒置スルニ非ヤ。程明道ノ所謂「於外物奉身者、事事要好、只有自家一箇身与心、却不要好」ト是コノ義ヲ云ルナリ。春秋ノトキ、斉ノ慶奉ガ魯ニ奔シニ、車ヲ以季武子ニ献ゼリ。其車美沢可以鑑。展莊叔コレヲミテ、車甚沢シ。人必瘁ナント云シモ、亦コノ意ナリ。ヨク／＼省思ベキナリ。

〔二十九〕 英傑帰仏

○朱子云ルハ、名寺ノ中ニ画ル所ノ諸ノ祖師、其人物皆魁偉雄傑ナリ。其氣貌如此ナレバ、世間ノ富貴利達、声色貨利、ナニトシテ他ヲ籠絡シ住ン。他コレヲ視モ、亦ソノ心ヲ動スコトナカラシ。特立独行底ノ人トナスベシ。若聖人アリテ收拾セバ、大段好ラン。当時吾道暗シテ、只章句詞章ノ学アレバ、他ハ如龍如虎ニ

テ、コノ芸解却テ他ヲ束縛シ得ズトナリ。我 日本ニテモ、仏法伝来ヨリ後、名アル祖師等多世ニ出ケリ。ソノ道ヲ任ジ、ソノ志ヲ励シテ、コレヲ世ニ唱ケルニ、中／＼富貴貨利ノ人慾ニ誘ル、モノニアラズ。大抵皆豪傑ノ人ナリケル。今伝所ノ僧伝ヲ読テ知ベシ。惜ベキコトハ、王化ノ盛ナルトキモ、唯記誦詞章ノ学耳アリテ、道学義理世ニ明ナラザル故ニ、少キ見識アル者ハ、世間ヲ看破テ、心術道理ト云ハ、仏ニノミ従フニハナリヌ。又西行法師ガゴトキ者モ、富榮利慾ニ屈セズ、其気魄ノ大ナル、亦豪傑ノ人ト云ベキナリ。若コレ等ノ人ニ大中至正ノ聖学ヲ聞シメバ、大ニコノ道ノ大匠トモ成ベキナリ。今日程朱ノ後二生、聖学ノ世ニ聞タルトキニ逢ヌレドモ、大ニコノ道ヲ任ゼン程ノ英傑モイマダ盛ンニ世ニ出ザルコソ遺恨トモ云ベケレ。

〔三十〕道学者流

○詞章記誦ノ学ハ、元ヨリソノ見識ノ卑陋ナルコトニテ、論ズルニ足ザルコトナリ。今専程朱ノ正学ヲナス者ハ、聖賢ノ道ヲ学モノニテ、真ノ学問ト云ベク、程子ノ云ル儒者ノ学ニテアレド、若四書六経ヲ考究スルニ、只文字訓詁ヲ耳吟味シテ、義理ヲ体験スルナク、口ニハ経書ヲトキ得レドモ、心ニ道理ノ自得スルナクバ、漢唐ノ訓詁者流ト異ナラズ。只経書読ト云モノニテ、彼ノ卑陋ナル詞章家ニモ何カ勝リトセン。又一等程朱ノ学ヲ究、知見ハ頗ル明ナルヲ得レドモ、実行ヲ勉ルニ心ナフシテ、修得タル一節モナク、古人ノ云ル「身ハ俗、口ハ道」ト云モノニテコソアルナレ。然レドモ我ゾ道学者ヨト得タリ顔ニ自任シ、世ノ学者ノ或ハ善ナル長ズル処ヲ容レズ、スベテ他ヲ視下シ、己ニ驕慢スルヨリ、温厚仁恵ノ意アラデ、ソノ人品謹篤ナル俗士ニ反テ劣コトアリ。カ、ル学者ハ、明ノ邵国賢ガ云ヘル仮道学ト云モノニテ、実ニ惜ベキコトニアラズヤ。楊龜山ノ「以身体之、以心驗之、従容默会於燕閒静一之中、超然自得於書言象意表」ト云ル、誠ニカクアラバ、訓詁ニ落ズ、義理ノ自得モコレアリテ、ソノ実行モコレヲ勉テ己ニ省察センナレバ、自驕リ人ヲ慢ノ失ヲモ免レナン。明ノ林鴻ノ詩ニ「一語不能踐、万卷徒空虚」ト云シ、今ノ学者ニゾ多カリケン。

〔三十一〕間散儒官

○今ノ儒官ナルモノハ、只書籍文字ノコトヲ業トシテ、職分ナキガゴトク、冗散ノ列トナリ、事ニ學術ヲ施スベキナク、徒ニ書生ヲ教、講読スルノミニテ、惜ベ

キコトナレドモ、又コレニ因、反テ德行ヲ修ルニ、一ノ勝ルコトアリ。何トナレバ、職掌ノ事務ナク、間静ナルヨリ、聖賢ノ書ヲ熟復スルニ暇アリテ、義理ヲ考窮シ、伝記ヲ歴覽シ、知ヨリ行ニ励シテ、一己ノ身ヲ善スルニハ奪ベキ外事ナフシテ、亦幸アルコトト云ベケレ。凡人ハ徳性ヲ涵養シ、知識ヲ博シ、ソノ言行ヲ篤実ニコレヲ勉修テ、事業ニモ任ゼン具ヲナスハ、只正学ヲスルニアレバ、今日コレニテ身ヲ終ナンノ心得ニテ、明日ニモ至、道行レナバ、世ニ施サナンノ志アルベキナリ。今ノ儒官ホドコノ具ナシ得ヤスカルベキコトナリ。明ノ劉儼ノ言ニ「今之涵養於官、莫如翰林。優游文翰之場、沉酣詩書之府、所聞者聖賢之言、所習者聖賢之行。錢穀簿書之事、機械變詐之巧、一無所動於中而其養純矣」ト云ル〔割書…送曹尚書復任序ノ中ニコレヲ云リ。〕、今ノ儒官ゾコレニ近トモ思ナレ。然ルニ、吾コソ散官ヨ、間暇ナルコソ幸ナレトテ時俗ニ肩ヲ合セ、ソノ学職ヲウチ忘テ、放蕩ナル輩モ世ニ又コレアレバ、実ニ慨嘆スルニ勝ズゾアリケル。

【下卷】

寓意録卷之下

目錄

我思古人	無以下体
論先賢是非	家務字問
酒亦嚴牆	所恥在心
利人之事	妓席
稻麦之花	視聽順逆
不受惠物	礼節贈遺
有贈無求	賜与
知民飢寒	鑿取金鉄
物価	男女之別
火葬之非	喪服由来
三年心喪	忌日
忌日素饌	急難相救
豪傑 灑落	病書死字
三社託宣	当禁之書
偽書	今之儒流
古人詠歌	

目錄終

〔三十二〕我思古人

○邶風綠衣ノ詩第三章ニ「我思古人、俾無訖兮」ト云、第四章ニ「我思古人、實獲吾心」ト云ルコソ言シカタナキ意得ナレ。コノ詩ハ、衛ノ莊姜ガ夫ノ莊公、ソノ賢夫人ナルヲ思ハデ、私愛ノ妾ニ惑、莊姜ヲ寵セズ、看棄ケルニ、少モソレヲ怨怒ル心ナク、ソノ心ニ叶ヌヲ憂嘆テ作ルナリ。詩ノ意ハ、古ノ人ノカ、ル悖逆ナル夫ニ遭テ、ヨク己ヲ修慎ケルヲ我手本トナシテ、我身ノ過ナカラシヤウニト勤励サントナリ。サテ古ノ人ノカク夫ニ見ステラレシヲ露ウラム心ナキヲ想ヤリテ、己ガ上モサアラシコトトナシテ、安ジ居トナリ。サテ／＼格別ナルコトト思ベキナリ。大抵、人ノ情ハ、タゞ先ノ惡コトヲ耳怨憤テ、手前ノ上ヲバ省ズ、ソレヨリノ我身ノ行ハワザクレト云ニナリテ、惡ニ至モノナリ。然ルヲ我過ナキヤウニト勉ヌルハ、誰カカクアラン。殊ニ古ノ賢者ノ上ヲ以コレヲ則トナシテ、己ヲ修ル至極ノ心得ナレ。又カ、ル逆境ニラレバ、心ニ悩テ、トヤセン、カクヤセント身ノ置ドコロモナキヤウニ憂テ、詮ナクコレヲナヤミ、己ガ守ヲ失コト多モノナリ。然ルヲ古ノ人モカクアレバ、トソレヲ思イタリ、吾身ヲ古人ノ場ニヲキ、ソノ安ンジ悩ザリシヲ身ニ引受テ、自コレヲナダメテ、ソレヨリ心モ和平ヲ得シコト、何カコレニ加ヘンヤ。總テ人ノ逆境ニナルモノ、怨憤ルヨリ身ノ咎ヲ取ト、其場ニ安ンゼズシテ己ガ守リヲ失フト、コノ二ナリ。古人ヲ以コレヲ比シテ省コソコノ上モナキコトナレ。臣ノ君ニ得ズ、子ノ父ニ得ズ、弟ノ兄ニ得ズ、朋友ノ相信ゼザルモ、皆コレヲ以法トナスベシト、朱子コノ詩ニ就テ言リ。誠ニ然ナリ。李延平ノ「若大段排遣シ去ザルコトニ逢バ、只古人所遭ノ患難大ニ不可堪モノ有シヲ思フテ、持テ以自比セバ、亦少ク安カルベシ」ト云ル、即コノ詩ヨリゾ得ラレシナラン。朱子、廖子晦ニ答ル書ニ、李先生ノコノ説ヲ挙テ、臨事テ甚力ヲ得ル処アルヲ覺ルトテ、コレヲ称セリ。凡不順ノ境ニ居テ、心ニ得ザル人ハ、ヨク／＼コノ義思フベキナリ。

〔三十三〕無以下体

○邶風谷風ノ詩ニ「采葑采菲、無以下体」ト云コトアリ。コレハ夫ニ棄ラレタル婦人ノ作ル詩ニテ、ソノ心ハ、葑モ菲モ、根莖皆食ル、モノニテ、美ナレドモ、ソノ根ハ時トシテ惡コトアレバ、根ノアシキヲ以莖ノ美ヲ捨ザレト云テ、コレニ

比シテ、顔色ノ衰ヘタルヲ以德音ノ善ヲ忘ザレトナリ。コノ意、都テ人ノ上ニ比シテ皆然ルコトナリ。大抵、人ニハ才芸ニテモ、学問ニテモ、短ナル処アレバ、又長ズル処アルモノナリ。又ソノ行ノ上モ、修得テ善ナル処アレバ、悪処モアルモノニテ、全才具ル人モナケレドモ、全棄ベキ人ハ少キモノナリ。然ルニ世ノ人、唯ソノ短ナル悪処ヲ耳挙テ、コレヲ非議シ、ソノ長ズル善ナル処ヲバ棄テ、コレヲ取ザルコト多。是ハ人ノヨキヲネタミ忌ヨリナル私心ナリ。只人ノ善処ヲノミ挙テコレヲ称シ、悪処ヲバ棄テ、コレヲ恕スルコソ忠厚ノ意トモ云ベキナレ。所謂「無以下体」トアルコト、ヨク／＼思ベキナリ。カク人ノ善ヲトリテ、コレヲ称シ、ソノ悪ヲバ姑コレヲ責ズシテ、恕スルナレバ、人ノ愈善ニス、ムニ至ルベク、悪ヲバ自コレヲ恥テ省改ルニモナルベケレ。サテ己ガ上ハ、コレニ反シテ、少ノ長ゼルヲバ足トセズ、マダ及ズ／＼トシテ、コレヲ励スベク、短ナルヲバ痛コレヲ責テ、少モ有恕スルコトナカレ。然アラバ学芸モ力行モ、ナニカ進ズヤアラン。

〔三十四〕 論先賢是非

○人物ノ賢不肖ヲ論ジ、先賢ノ是非ヲ議スルハ、義理ヲ考究シ、學術ノ邪正ヲ弁ズルコトニテ、公ナル心ヲ以然セザレバ叶^又処ヨリスルハ、宜キナリ。若左ハアラデ、ソノ人ヲ評議シテ、短ナル処ヲ毀シルノ私情ヨリスレバ、己ヲ主張スルコトニテ、アルマジキコトナリ。ソノ公心ヨリスルハ、義理ノアルベキコトハ、朱子「答李深卿書」ニ「觀聖賢議論、雖未嘗不推尊前輩、而其是非非之際、亦未嘗有毫髮假借之私。若孟子之論伊尹夷惠、抑揚其辞、不一而足。亦可見矣」ト云。又「答沈叔晦書」ニ「尊畏前輩、謙遜長厚、豈非美事。然此処才有偏重、便成病痛」ト云。李退溪モ亦「答黃仲舉書」ニ「非議前輩、固後學之不敢輕也。然至於析理論道、則一毫不可苟。故晦庵与東萊、訂定知言之醇疵也。南軒亦五峰之門人也。以弟子而議師門之書、不以為嫌者、豈不以義理天下之公也」ト云。又「答金惇叙書」ニ「論人長短為不可者、恐使人益長陰薄之習耳。其本於忠愛、而弁別是非、則自古聖賢論当世人物、自不為少何可概。謂之不善耶」ト云ル等ノ言、誠理ノ当ルコトナリ。ヨク／＼察スベシ。凡通儒全才ハ世ニ希ナレバ、先輩大家ト称スル師儒ニ於テモ、何ゾコレヲ議スル処ナカラシヤ。旁觀スレバ明ナルノ理ニテ、學識ノソノ地ニ至ラヌモノモ、ソレヲ弁ズルコトハナルモノナリ。然レバ吾儕晩生トテモ、先賢師儒ノイマダ善尽ザル処ハ、コレヲ論ズルモ何ゾ害アラン。所謂

是是非非スルノ際、毫髪モ私ヲ仮ス可カラヌ公心ト、所謂忠愛二本ヅクト、不得已ノ心ヨリ是ヲ弁ズルナレバ、却テ篤キ処ヨリスルコトニテ、固善ナルナリ。但今ノ師儒タルモノ、朱子、退溪ノカク云ケルヲロニ籍テ、我学流ヲ荷担シ、一門戸ヲ立、他門ノ人ナレバ、先輩トテモコレヲ非議シ、其短ナル処ヲノミ挙テ、長ズル処ヲ称セズ。況ヤ当時ニアル人ヲバ殊ニコレヲ非議シテ置ザルヤ。カ、ル人モ往往ニコレ有ヲ聞ヌ。コレ等ハ恐ハ是非ヲ弁ズル公心トハ云ガタフシテ、ソノ人ヲ輕視スル失礼トモ云ベケンカ。

〔三十五〕家務学問

○一の家務ノ紛冗ナルニテ、学問ニ妨アリト心得、何トゾ清間ヲ求テ読書セントテ、事務ヲ厭、ソレオバ苟且ニスル人アリ。以ノ外、真ノ学問ノ理ヲ知ヌコトナリ。凡道理ヲ考窮スル、皆事物ニ就テコレヲ窮、ソノ義理ナリニ事ヲ処スルコトニテ、家庭ノ間、父兄ニ事、日用ノ事ヲトリ行上、皆身ヲ修ル場ニテ、人事ヲ離テ道ヲ得ルト云コトハナキナリ。書ヲ読テ道理ヲ知モ、何ノ為ゾヤ。事ゴトニ、ソノ道理ヲ看得テ、容易ニセマジキ故ゾカシ。是即学問ノ用処ナレ。然レバ功ヲ用ルノ実地ハ、家務ノ間ヲ離ズシテ、コレヲ推テユケバ、治国ニモ及コトナリ。ソレ故ニ、コレヲ厭フテ脱シ去ノ心アラバ、道理ト事ト両截ニナリテ、読書モ亦無用処ト朱子モ云リ。ヨク／＼思ベシ。

〔三十六〕酒亦巖牆

○凡人ノ私慾ヲ恣ニシ、生ヲ傷、身ヲ害スルヲ知ズ、コレニ耽ルハ、ソノ蔽ノ深シテ曉ヌ故ナリ。ソレ故ニ、義理ヲ以戒諭セド、反ガタキモノナリ。只其蔽ル処ヨリコレヲ告ズ、ソノ畏、欲セヌ所ヨリサトセバ、ヨク聞容ルモノナリ。今人ノ生ヲ好、死ヲ惡ハ、天下ノ公情ニテアレバ、ソノ畏ル処ヨリ、生命ヲ害スル義ヲ以コレヲ禁ジヌレバ、ソノ言ニ感ジテ従フモノナリ。昔、陳大卿ト云ケル人、平生酒ヲ好テ禁ジエザリシニ、一日同僚ノ士アリテ、「知命者不立於巖牆之下」ト云フ挙テ、陳大卿ニコレヲ問ケルニ、陳忽ニ感悟シテ、「酒亦巖牆也」ト言テ、コレヨリ痛酒ヲ絶テ、不飲ケリトナリ〔割書：宋俞元徳ノ蚩雪叢談ニ見エタリ〕。コレ畏ル処ヨリ非命ノ禍ヲ合点シ、一旦ニ感悟セルナリ。誠ニ非義ノ行ヲナシテ、身ヲ危亡ノ場ニ置テ顧ザルモ、酒色ニ耽テ生ヲ傷ルモ、皆我ヨリ禍ヲトルコトニテ、正命ニアラザレバ、命ヲ知り、義理ニ従フナレバ、決シテ為ザルコトトシル

ベキナリ。

〔三十七〕所恥在心

○兼好法師ガ、四十二タラヌ程ニテ死ナンコソヤスカルベシ。其ホド過ヌレバ、形ヲ恥ル心モナク、人ニイデマジラハンコトヲ思ナド、老ヌレバソノ形ヲハヅベキコトヲ云ル、サテ／＼義理ニ暗コトナリ。凡人タルモノ、生ズルヨリ長ジ、壮ナルヨリ衰ヘテ、老ルニ到。齒ノ落ヌルモ、髪ノ白ナルモ、步履ノ健ナラズシテ、容貌ノ蕉瘁セルコト、皆老タル者ノ常態ニテ、天ノマヽノ有サマナレバ、何ノ恥ベキコトカアル。彼ガ好色ノコヽロヨリ、形ノ醜キヲ厭テ、恥カシトセルニテアランナレバ、陋見トコソ云ベケレ。余ガ意ヲ以云バ、年老テ恥カシキハ、只心ニゾアルナレ。何トナレバ、人幼ヨリ志ヲ学問ニ向、壮年ニ到ラバ、身ノ行ヒ修リテ、自立ノ場ヲ得、四十五ヨリ愈老境ニナリナバ徳義モ備リ、老成ノ人トモ称セラルベキコト本意ナルニ、吾儕ゴトキ、ソノ身心ヲ省レバ、少モ若トキニ勝レルコトナク、ソノ私意モイマダ克ガタク、義理モイマダ深ヲ窮得ズ、身ニ修メ得タル一節モアラデ、犬馬ト共ニ齡ヲ添ヌルコト、イカバカリ恥シキコトニアラズヤ。ソノ心ヲ恥カシトスルヲ知ズシテ、形ノ衰ヘタルヲ恥ルハ、何ゴトゾヤ。反／＼モ陋見トコソ云ベケレ。

〔三十八〕利人之事

○人ハ人ノ利益ニナランコトヲナシ、少モ人ノタメニアシカラヌヤウニセント心ガクベキナリ。コレ人ヲ思イタワリヲスル恕ノコヽロヨリ、カクアルベキナリ。ソノ人ヲ利スルニ、財ノ富ルヲ以貧モノニ施スヤ、上ニアル人ノ下ナルモノヲ恵タメヨキコトヲセルハ、ソノ人ハナレドモ、貧賤ナルモノハ勢ナリ。得ヌナレバ人ノ益ヲナスコトハナラヌト思ベケレド、左ニハアラズ。貴キモ、賤キモ、富ルモ、貧キモ、一人ノタメヨキヤウニト心ガクレバ、我竟界ナリニ、人ノ益ニナルコトアルナリ。タトヘバ家ノ戸ロニアタリテ机アレバ、コレハ往来スルモノヽサワリニナリヌルト思テ、ソノ机ヲワキヘヨスルナリ。然アレバ、出入スル人ノタメニナルコトナリ。カクノゴトク万事ニ心ヲ付テスレバ、一日ノ間モ事／＼二人ノ益ニナルコトアリ。宋ノ葛蘩ト云ケル人、コノ心得ニテ人ヲ利スルコトヲナシ、一日ニ或ハ二次、或ハ三次、或ハ数次コレヲナシテ、四十余年ノ間カクアリシトナリ。吾儕コノ意ニ倣ベキナリ。

〔三十九〕妓席

○昔、二程夫子、或人ノ宴ニ赴ケルニ、妓女アリテ、觴ヲ侑リ。伊川ハ、衣ヲ扠テ席ヲ起リ、明道ハ、歛ヲ尽シテ罷リ、次ノ日、伊川慍ル意イマダ解ザリケレバ、明道云ルハ、昨日坐中ニ妓アリテ、吾心中ニ却テ妓ナシ。今日齋中ニ妓ナキニ、汝心中ニ却テ妓アリ、ト。伊川自及ズト謂リトナリ〔割書…鄭瑄ガ著ス昨非菴日纂ニ、コノ事ヲ載タリ〕。此ノ一事、淵源録、言行録〔割書…外集〕、宋史、二程語録、及宋朝諸賢ノ論述セルモノニナキコトナリ。王陽明学流ノ者、毎毎コレヲ話柄トナシテ、明道ノ心術格別ニ高コトヲ称セリ。余謂、コノ事決テ二程子ノナキコトニテ、心学者流ノ杜撰ニ云出セルモノナリ。何トナレバ、理ト事ト離ザルコトニテ、心ト迹ト二ナラズ。心ニコノコトアレバ、迹必コレヲ見シ、迹ニコノコトアレバ、心ニ預ラヌコトナシ。ソレ故ニ、道理ニ循テ事ヲナシ、日用事事礼義ニ叶コトニテ、若視聽言動ノ上、非礼ニ誘カルレバ、ソノ中ソレニ遷レルコト故ニ、コレヲ外ニ制シテ、中ヲ安ズルコトナリ。聖賢ノ教、カク非礼ヲ禁ズルナレバ、妓女等ノ宴ハ、非礼ノ席、非礼ノ視聽ト云モノナレバ、コレヲ避テ退コソ非礼ヲ禁ズル正面トハ云ベキナレ。然ルヲ心ダニウツルコトナケレバ、ソノ非礼ノ席ニ居テモ妨ズトセバ、心ト境ヲ二ニシテ、敬以直内スルハアリテ、義以方外ニスルハナキコトナリ。今、境ハイカニアリテモ拘ラヌトセバ、人事ノ礼義当然ハカケルコトニアラズヤ。カクアレバ、心術ヲノミ収ントシテ、ソノ行事ハコレヲ拘ラザルヨリ、所謂猖狂妄行スルト云モノニテ、禅学者ノ見解ニナリ、内外相共ニ修ユク聖学トハ、天壤ノ異ナルコトナリ。ソレ故ニ、コノコト極テ妄誕ト心得テ、信ズマジキナリ。

〔四十〕稻麦之花

○凡草木之花ヲ觀ニ、尤小ニシテ、見ドコロナキモノハ、稻麦ノ花ニシクハナシ。然ルニ、ソノ秀デ実ノルニナリテハ、天下ノ人民ヲ利スル物、コレニ過タルナシ。コレ陰陽ノ精ヲ受、中和ノ氣ヲ萃タル故ナリ。サテ大ニシテ艷麗ニ見ルニヨロシキモノハ、牡丹ノ花ニシクハナシ。然ルニソノ満テ盛ナルコト只十日モ不逾シテ、摧殘スルコトハ何ゾナレバ、其發洩スルノ大ニ過テ、中ニタクハヘズ、ソノ氣化ノ偏ニシテ薄故ナリ。コレニテ人タル者ノ稻麦ヲミテ涵養ノ内ニ純ニスニスベキヲ知、牡丹ヲ看テ才華ノ外ニ逞フスマジキコトヲ知ベシ。学問修行ノ上ヨリ、

事業ニ施ス上モ、コノ理ヲヨク／＼心得ベキナリ。

〔四十一〕視聽順逆

○視聽言動ノ四ノモノハ、皆人心ノ用ニテ、物ニ接リ、事ヲ行フ往トシテ、コレニ外ナラズ。只義理ニ背又ヤウニ、其非礼ヲ禁ジ、義理ニ循テ視聽等ヲスルコソ聖賢ノ教ニテ、天理ノマ、礼ニ復、私ニ克コトコ、ニアリ。然レバ洪範ニ云「視曰明、聴曰聰」等ハ、其自然ノ理ノマ、ニユクコトニテ、順ニスルモノナリ。程朱以来、コレヲ誨諭セルコト備ヌレバ、別ニ論ズルニ及ザルコトナリ。然ルニ仏者ノ教ハ念慮ヲ絶、視聽ヲ抑テ行ヌヤウニスレバ、私慾ノ非ヲ患ルヨリ義理ニユク上ヲモ禁ズルニナリテ、皆逆ニスルモノナリ。若シカラバ、人心ノ用ハ絶テ、独心ヲ澄シ、操守トテモ、何ノ益カアランヤ。昔、大燈国師ノ「視ズ聴ズ言ザル三ノサルヨリモ思ザルコソマサルナリケリ」ト狂歌ヲ詠ゼシ、世ニコレヲ伝テ、彼ノ徒ハ勝タル意思トスレド、視ベキヲモ視ズ、聴ベキヲモ聴ズ、思ベキヲモ思ザルナレバ、人心ノ用ヲ抑ルモノニテ、ソノ非ナルコト云シカタナシ。又一条ノ兼良公ノ先人ハ、「視ザル聴ザル言ザル三ツノサルヲツ、シミテ持ベシ。一切ノ災難ハ、コノサルヲツナガヌニヨレリ。タゞヨク見トゞムベキコトヲバ見ヲキ、聴トクベキコトヲバ、ヨクトヒテキケ。イフベキコトヲバ、ヨクイヒトゞケヨ。心モトゞメズ、見スグシ、キ、ステ、イヒステツルコトハ、必アヤマリアリ」ト云ルコトアリ〔割書・寢覚記ニ見タリ〕。コレハ、視聽言ヲ抑ルニハアラデ、見ベキ聴ベキヲバヨクツ、シミテ、漫ニ視聽スマジキヲ云ルナレバ、仏意トハ同ジカラズ。頗ル非礼ヲワキマエユクニテアレバ、稍心得アラレタルコトナリ。

〔四十二〕不受恵物

○凡人事ノ交接ニ、ソノ意ヲ表スルニテ物ヲ贈ノ礼節アルコトナレドモ、ソノ心ノ誠ヲ寓スルト、コレヲ貨ニシテ遺トノ二端アレバ、其礼ニ叶ヌ贈リモノハ、只ソノ貨ヲトルニナル故ニ、受マジキコトアリ。礼記緇衣篇ニ「子曰、私恵不帰徳。君子不自留焉」ト。コレハ、公礼慶賀ニ問遺スルニアラデ、褻瀆スル処ヨリ不正ナル贈リモノナレバ、徳ニアラザル故ニ、コノ物ヲバ辞シテ留ザルトナリ。然レバ、礼節ニアタルコトナキ物ヲ受ルハ、ソレヲ貪ルコトニテ、利スルニナルナレバ、アルマジキナリ。晋ノ昭公、諸侯ヲ平丘ニ会スルトキ、衛ノ地ニ次シニ、衛人屠伯ト云ケル者ヲ使トシテ、晋ノ叔向ニ羹ト一簋ノ錦ヲ饋テ、受ナンコトヲ請

ケレバ、叔向ソノ羹ヲバコレヲ受、錦ヲバ反シテ曰、「晋有羊舌鮒者、瀆貨無厭、亦將及矣」トナリ〔割書…昭公十三年ノ左伝ニ見エタリ〕。又、朱子モ丁賓卿ノ蟹ト布ヲ贈リケルニ、ソノ答書ニ「惠況江蟹、感領至意。江茶五瓶、少見微意。布則例不敢受也」ト云テ、ソノ布ヲ返セリ。コレ叔向ノ錦ヲ反セルト同ジコ、ロナリ。皆礼義ニ当ザル物ハ取ザルコトニテ、貨ヲ貪ザル法トナスベシ。是則所謂惠不帰徳ト云モノナリ。サテ礼貴往来ナレバ、彼コノ礼節ヲ以我ニ与ルナレバ、我モ亦此礼ニ報ジテ贈ルベキコトナリ。朱子ノ江茶ヲ報ゼラル、見ルベシ。固受ベキ礼ナレドモ、貨財ヲバシリゾケ、微物ヲ受ル、宜キニアランナレドモ、孟子モ驢トシテ贈レバ受ラレシコトアレバ、又一概ニ論ジガタキコトアリ。但シコレ貨ニセザルナレバ不苦ドモ、貨幣ハ己ニ利スルコトナル故ニ、辞スルノ過当セルトモ、受ザルハ殊ニヨカラン。又朋友ハ有通財之義ト云コトニテアレバ、其窮スルヲ助テ遺ルナドハ、尤受ベキ義アルナレドモ、至テ窮スルニアラズハ、受マジキコトナリ。左アラデ、朋友ナレバ何ノ妨アラントセバ、貨財ヲ貪ルニナルナリ。ヨク／＼弁察スベキナリ。

〔四十三〕 礼節贈遺

○尚書ニ「享多儀也。儀不及物、為不享」ト云コトアリ。コレハ凡交際ノ礼節ニテ、人ニ物ヲ遺ハ、ソノ心ニアル礼義ヲ行ニ、物ヲ以表スルニ非レバ、ソノ実意ノ著レヌ故ニ、コレヲ其物ニ寓スルコトナリ。ソレ故ニ、物ハソノ礼儀ノ誠意ニ当ホドニスルコトナリ。今贈処ノ物ハ多シテ、ソノ心ノ儀ハ少ケレバ、不享ト云モノナリ。故ニソノ贈リモノヲ受ル人モ、ソノ礼ノ実意ヲ受テ、物ニハヨラヌナリ。然ルニ今ノ世ハ物ヲサヘ多ク贈レバ人ノ悦ト心得テ、心ニ相当セヌ贈リモノヲスルコトアリ。コレ只人ニ財貨ヲ貪ラシムルト云モノニテ、礼ニ叶ヌナリ。サテ礼記ニ「居山以魚鱉為礼、居沢以鹿豕為礼。君子謂之不知礼」ト云ル、コレ亦ヨクヨク思ベシ。礼ハ即理ノ節文ニ出タルナレバ、理ニ当ラヌハ礼ニ非ズ。山ニ居者ハ、鹿豕ハ吾得ベキ物ナル故ニ、コレヲ以心ノ儀ヲ表シ、沢ニ居者ハ、魚鱉ハ吾エベキ物ナル故ニ、コレヲ以心ノ儀ヲ表スルハ、ソノ理ニ叶フコトナリ。然レバ山ニアレバ、ソノ礼儀山ニテ足、沢ニアレバ、ソノ礼儀沢ニテ足コトニテ、外ニ待コトナキノ当然ナレ。然ルヲ山ニアリテ却テ魚鱉ヲ用ヒ、沢ニアリテ却テ鹿豕ヲ用ルハ、コレヲ外ニ求ルコトニテ、理ニ当ラザルナリ。コレヨリ推テ云バ、貧賤ニアレバ礼儀モ貧賤ニテ足、富貴ニアレバ礼儀モ富貴ノマヽニ足コトナル

ニ、貧賤ニアリテ過分ニ物ヲ遺ナドハ、ソノ足ザルヲ愧テ、外ニ待モノニテ、礼儀ニ叶ズ。仮令バ富貴ナル人、コノ儀アリテ、我ニ魚ヲ贈ルニ、鯛鱸ナドノ嘉魚ヲ遺レバ、コレニ報ゼンニ貧賤ナレバ、小魚ニテモ、脯修ニテモ、贈ルヲソノ分ニ叶テ礼ニ当ルトハ云ナリ。或ハ幣帛、或ハ貨財ニ報ル上モ、皆コノ心得ナルベシ。然ルニ彼カクアルニ、我カクアルハナシガタシトシテ、ソノ物ニ応ズル程ノ報礼セントスルハ、只其物ニ心ヲ執着シテ、例ノ実意ヲ知ザルコトナリ。今シカアル風俗ニ引レテ人ニ贈遺スルニ、我分ニ過テスルユヘニ、窮スルモノナシガタケレバ、或ハ人ニ仮貸シテスルニナリ、勢苦ムアリ。今貧賤ナレバ、ソノ本分ヲ守テスルコソ理ニ当レルコトナレ。ヨク／＼思ベキナリ。サテ又財ノ有無ニ従フコトナレバ、我力ノ成ベキ程ノコトニテアラバ、礼儀ノ報ハ、贈ルヨリコレヲ加テスルヲ実意ノ厚トモ云ベケレ。何トナレバ、人情ニ人ノ施シヲ受ルニ、我カクコレニ報ヌレバ足ヌ、過ヌルニ及ズトスレバ、ソノ施スモノ、恩徳ヲ忘ニモ至ナリ。ソレ故ニ、彼贈ル所ハ輕ケレドモ、我コレニ報ヌルハ、重セント心得テ、彼ノ贈リモノ、輕重ヲ相較ス。カクアレド、ソノ報ヤ薄カラシヲ思フテスベキナリ。詩ノ木瓜篇ニ「投我以木瓜、報之以瓊琚」ト云ケル、コノ心得ゾカシ。

〔四十四〕有贈無求

○凡礼義ニ於テ物ヲ以贈ルベキアリ、受ベキアレドモ、求ルハコレヲ貪ルニナルコトアリ。春秋隱公三年、秋武子來求賻条ニ、公羊伝云、「喪事無求。求賻非礼也」ト。穀梁伝云、「周雖不求、魯不可以不歸。魯雖不歸、周不可以求之」トアル、理ノ当ルコトナリ。喪事ニ於テハ、ソノ埋葬ノ費ヲ助テ、親戚僚友タルモノハ、賻ヲ遺ルハ義ノアルベキコトナレバ、コレヲ受、亦取ベキノ義アリ。然ルニ其贈ルヲ待ズシテ、吾ヨリコレヲ請求ルハ非ナリ。若我窮スルニ至ズアラバ、彼コレヲ遺トモ、辞シテ受ザルハ愈ヨシ。古人ソノ遺リシ賻ヲ辞セジモ、カレコレゾアリケル。然レバ賻贈ハ、コレヲ遺ル義ナリ。不遺ハ礼ニアラズ。コレヲ推テ云ニ、親戚僚友ノ間、ソノ患難困窮ヲ救助ルハ義ニアレバ、贈リ惠ベキナレドモ、吾コレヲ遺ラザルニ、彼ヨリ請求ルハ、至極ノ己ヲ得ザルニアラズハアルマジキコトナリ。コレヲ忍得ズシテ、コレヨリ求レバ、節操ヲ失コトニテ、恥ベキコトナレバナリ。故ニコレヲ救テ贈ルハ義ナリ。不贈ハ義ニアラズ。取ベキ義ニ当レバ受ル義ナレド、コレヲ辞スルハ愈宜シ。受ベキ義アリトテ、コレヨリ求ルハ、義ニアラズ。コノ処ヨク／＼察スベシ。

〔四十五〕賜与

○北魏ノ韓顓宗、其君ニ上書シテ云ルハ、倉庫ノ儲ハ軍国ノ用ニ供スルナレバ、功德アル者ニ非レバ、加賜ベカラズ。禄ヲ受ルノ輕カラヌ在朝ノ官人ニ、動スレバ千金ヲ以頒賚ル。若コレヲ分テ鰥寡孤独ノ民ニ賜ナラバ、濟所多ラン。今タゞニ親近ノ臣ニ与ルハ、急ニ周フシ富ルニ繼ザルノ義ニアラズトナリ。又唐ノ穆宗晨、ダニ近習倡優ノ類ト狎暱シテ、毎毎過分ニ物ヲ賜ヘリ。アル時、鄭覃ト云ケル者、コレヲ諫テ云ルハ、金帛ハ百姓ノ膏血ニテアレバ、功アル者ニ非バ、与ベカラズ。今内藏ノ財貨余アレドモ、願ハコレヲ愛惜シ玉ヘ。万一四方ニ何事ゾアルトキ、有司ノ百姓ヲ重斂セザランヤウ為玉フベシトナリ。此二氏ノ言、至極ノ意ナリ。凡人主ハ、富厚ノ勢ニ居玉フテ、何ゴトモ心ニ叶ヌコトナキナレバ、少クモソノ快キニ乗ズレバ、漫二人ニ賜与スルコトアリ易ナリ。殊ニ近臣ヤ、狎愛セル優人、医官ナドハ、ソノ賜ヒヌルモ更ニ多キコト、勢ヒノ自然ナリ。又賈誼ノ所謂「賜予侈左右近臣、郅授於疎遠卑賤」トアル〔割書…新書ニ見エタリ〕、誠ニ親暱ニ賜コト過スレバ、自然ニ疎遠ノモノニハ惠ノ及ザルコトナリ、百姓ノ窮厄ニハ思イタリナク、惠ノ一向ニ施シ玉ヌニナリユクモノナリ。夫累臣、万ノ貨財ナリトモ、コレハ限アリ。費用ニ施スコトハ限ナシ。今限アル財ヲ以、限ナキ用ニ供セントセバ、天下ノ富トテモ、何ゾ窮乏ニ至ラザランヤ。太平無事ノ世ナリトモ、水旱虫蝗ノ變ハ免レザルコトナレバ、若人主ノ財ニ乏クアラバ、ソノトキニ当リテ、何ヲ以カソノ民ノ困窮飢餓ヲ救恤ンヤ。畏思ベキニ非ヤ。然レバ節儉ニシテ亦吝嗇ナラズ、賞スベキ者ハ必コレニ賜フテ、コレヲ勸賞スマジキ者ニ漫リニ与ズシテ、意外ノ用ニ備、常ニソノ財ヲ優ニスルコソ誠ニ国家ヲ治ルノ用心トモ云ベケレ。古ヨリソノ処ノ水旱ニヨリテ、民ヲ救恤ルニ、賜復トテ、或ハ一方一郡ノ租税ヲ免ルヤ、或ハ慶赦等ノ特恩ニテ其郷郡ニ賜フコトハ、歴代コレアレドモ、天下ニ全コレヲ免ジ賜フコトハ、漢ノ文帝ノトキ、「賜天下民今年田租之半」ト、昭帝ノ時、「毋令出民今年歲田租」トアルナドノ一二次ニテ、ソノ後コレヲ聞ズ。コレハ勢ヒノ成ガタケレバナリ。明亡テ後、清ノ代ニナリテ、ソノ世祖康熙帝英主ニテ、身ハ奢侈ヲ禁ジ、仁沢ヲ海内ニ施シ、政化ニ美事ドモ多コレアリテ、在位六十一年ノ間、蠲免賜復ノ詔、毎毎コレアリシ中ニ、康熙五十年ニ、天下ノ錢糧ヲ蠲免セリ。其後ニ至リ、今ノ主、乾隆十年ニ、又普ク天下ノ錢糧ヲ一年免ゼリトナリ〔割書…コノコト周学健ノ成案彙編ニ見エタリ〕。コ

ノ挙ハ、若財用ノ少シモ足ザルナレバ、何トテカナシ得ンヤ。ソノ大ニ富優ナルノ驗モ量知ベク、仁惠寛大ノ美政称スベキコトニテ、誠ニアラマホシキコトゾカシ。

〔四十五〕 知民飢寒

○吳融ノ華清宮ヲ詠ズル詩ニ「四郊飛雪暗雲端、惟此宮中落便乾。緑樹碧簷相掩映、無人知道外辺寒」ト云ル、コレハ華清宮ノ暖ナルヲノミ知テ、外辺ノ寒ヲ知ザルヲ述テ、玄宗ノ富榮ノ歡樂ニ心ヲ耽テ、天下ノ困窮シテ民ノ飢寒スルヲ知ズ、士民ノ怨テ亡ナントスルニ至コトヲ言外ニ含メリ。其詞味フベキナリ。総テ人主ハ、深穆ニ在テ、下情遠隔リ、ソノ患難窮苦モ聞玉ハヌコト多モノニテ、ソノ温飽安逸ナレバ、下ハイカニヤト思遣ルコトハ甚希ナルコソ自然ノ勢ナレ。昔、齊ノ景公ノトキ、雪フル三日ニ及リ。公、狐白ノ裘ヲ被テ、堂側ニ坐シ、晏子ニ謂ク、雪フル三日ナレドモ、寒カラザルコトハ何ゾヤ、ト。晏子對テ、賢君ハ、飽テ人ノ飢ヲ知、温ニテ人ノ寒キヲ知レルナリ、ト云ケレバ、景公其言ヲ善トシテ、遂ニ裘ヲ脱シ、粟ヲ發セリトナリ〔割書…晏子春秋ニ見エタリ〕。又雪ノフリシトキ、楚ノ莊王、裘ヲ被テ、戸ニアタリテ云ルハ、我猶寒シ。彼ノ百姓ハ甚シカラントテ、乃國中ヲ巡行セシメ、百姓ノ糧ヲ絶モノニ、コレヲ賑セリトナリ〔割書…尸子ニ見エタリ〕。又我昔 一条帝ハ、冬夜ニ御衣ヲ脱玉フテ、四海ノ民ヲ思ヒヤルニ、吾独温カナルベカラズト云リ。又後、京極良経公ノ歌ニ「オホフベキ袖コソナケレ世ノ中ニ寒ケキ民ノ冬ノ夜ナ」ト読レシ〔割書…共二十訓抄ニミエタリ〕、大抵人主ハ、想ヤリノ及ガタキニカクアリケルコソ目出度ケレ。良経モ、大臣ノ身トシテ、コノ心アラレケルモ、頼母シキコトゾカシ。然ルニ彼ノ絜矩スルノ政ニテ、民ノ窮厄ナク、各ソノ所ヲ得テ、仁惠ヲ蒙コトハ、平日ノ処置ニアルコトナリ。只ソノ一時ニ臨テ、コノ想ヒヤリ耳ニアレバ、誠ニ徒善ト云モノニテ、庶民ハ沢ヲ被ラヌコトナリ。且天下ノ広キ人民ノ衆、悉裘ヲ出シ、粟ヲ發スベキモノナランヤ。ヨク／＼思察スベキナリ。

〔四十六〕 鑿取金鉄

○金銀ハ、コレヲ以貨幣ヲ造、銅鉄ハ、コレヲ以錢布器用トスルコトニテ、天下ノ至宝ナレバ、尤珍トシ貴ベキモノナリ。皆山ニ就テ、コレヲ鑿得ルコトナルニ、漫ニ多ハ鑿尽スマジキモノナリ。漢ノ貢禹、上書シテ、錢ヲ鑄ニ、山ヲ攻、銅鉄

ヲトル地ヲ鑿コト数百丈ナレバ、陰氣ノ精ヲ銷シテ、地藏空虚シ。水旱ノ変、コレニヨルコトニテアレバ、多ホルニ宜カラズト云リ。又、宋ノ胡宿モ、「金坑ヲ置テ、多民ヲ聚テ、山谷ヲホルハ、陽氣ヲ損泄ス。コレヲ禁止シテ、地道ヲ寧スベシト云リ。ソレ故ニ、中華ニテハ、金銀アルトテモ、山ゴトニハ屢ホラザルコトト見エタレ。但シ、漢ノ代ニハ、諸臣ノ賞賜ニ黄金ヲ賜コト多アリテ、黄金ノ多カリシ代ト称スルナレバ、ソノトキハ三代ノ後、上世ナレバ、山ニ金銀ノ精粹多蓄聚シテ、生ゼシモ盛ニアリテ、多ホリ出セシナラン。ソノ後ノ代ニナリテハ、コレヲ鑿コト希ナレバコソ次第ニ金銀モ少クゾ成ケル。唐宋ノ比ニハ、黄金ヲ賞賜ニ用ルコト甚希ニテ、貨幣ニモ金銀ヲ用ザルニゾナリス。又、唐書ノ地理志ナドニ、金坑銀坑アルコト記テアレドモ、ソノ山モ、大国ニシテ見レバ、少キコトニテ、ソレスラ多ハホラズ、只ソノ金銀アルヲ云シコトト見エタリ。我 日本モ、古ハ金銀ノ出ルコト乏カリシニ、慶長ノ初比ヨリ、佐渡、石見、伊豆、陸奥ノ諸州ヨリ金銀ヲ出スコト夥シキコトニテ、コレニ因テ 神祖貨幣ヲ製造セシメ玉ヒテ、財用モ優ニナリシコト、上代ニ例ナキコトナリ。ソレヨリ後モ、コハカシコヨリ金銀出コトナレド、ソノ数多カラズ。佐渡ノ州ヨリハ、当代モ猶出トハ聞ヌ。畢竟、数千載ノ間、精粹ノ氣、山ニ盛ニナリ、中葉以来、乱世ウチツバキテ、金銀坑ヲモ知ズナリユキ、大ニ儲蓄セルヨリ、我 神祖ノ代ニナリテ、太平ノ運ニ応ジテ發出セシモノナリ。然レバ甚広博ナル貨財ノ数ナレバ、コレニテ足ルコトニテ、コノ後ハ、漫ニ山ヲ鑿、精氣ヲ損スマジキコトナリ。金銀ヲホラザルコト又数百年ヲ経ナバ、山土ノ氣モ愈儲ヘ、金銀モ多生ジテ、ソノトキ、用ニ応ジテコレヲ鑿バ、精氣ヲ損スルニ至ズシテ、天下ノ用ヲ利センナリ。或人云ルハ、 慶長以来、元禄八年マデ、年年ニ造リ出セシ金銀ノ總数、金ハ七千万両、銀ハ八十万貫目ホドノ積ニテ、正保五年ヨリ宝永五年マデ、凡六十二年ノ間、長崎ヨリ外国ニ入シ金銀ノ数、大抵我国ニアル所ノ数ノ三分一二当リ、薩摩、対馬ヨリ、朝鮮、琉球ニ入シナドハコノ外ニテ、数モ知レザルナリト、詳ニ白石翁コレヲ記リ。当時ハ、外国ニ入コト、**ソノ比ニタクラブレバ甚ダ希**ナレド、**年**年ニ入ザルコト**ナク、銅ハ今ノトキモ多入ヌト聞ヌ**。一タビ外国ニユキシ金銀ハ、再我国ニ返ヌナレバ、金銀ハ年年ニ減少ニナル、勢ノ自然ニテ、世ニ行ル所ノ貨財乏クアラバ、用ニ支テ、山ヨリ屢コレヲホリ出シテ、造ネバ叶ズ勢ニテアルハ、イカニゾトナリ。然レドモ畢竟貨幣ハ人為ニ出ルモノニテ、多ケレバ多キニ随、少ナケレバ少キニ随ヒテ、用ニ叶フモノナリ。仮令バ価百金ナリシモノヲ十金ニ

定、又ハ一二金ニ定メテモ、用ノ行レヌコトハナキナリ。物ゴトニカク準ズレバ、貨ハ貴クナリ、物ハ賤シテ、用ニ叶ベキナリ。中華ニテハ、金銀ヲ常用トセズ。宋元ノトキ、楮幣ヲ造テ、用ヲ通ズルニテモ、知ヌベキナリ。貨財甚ダ多ク行ル故ニ、物甚ダ貴ナリ、相当セヌコトアルナレ。貨財ハ、物ゴトニ叶フナレバ、宜キナリ。但シ、金銀ハアルニマカセテ用ユベケレドモ、国家ノ至宝、天地ノ精粹ナル物ノ外国ニ持往テ、次第ニ我国ニ減少スルコト、惜ベキニアラズヤ。ソレ故ニ、国ノ宝ヲ失ハンコト、返スゞモ悔ベキコトトテ、白石翁モコレヲ嘆テ建白セシモ、至極ナル慮リナリ。コノコトニ就テハ、大ニ処置ノアルベキニテ、白石翁モ略コレヲ云ルナレド、猶論説モコレアリ。今姑コ、ニ黙シヌ。サテ太宰某ガ記セシモノニ、土地ヨリ生ズル物ハ、民間ヲ助ルコトナレバ、コノ山ニ乏シクナレバ、彼ノ山ニ多生スル、自然ノ道ニテ、海内ニ金銀ノ生ズルモ、処々ニアルベシ。左アル山ヲ尋テ、労費ヲ憚ズシテ、コレヲホリ出サセナバ、金銀又豊饒ニナリテ、用ヲナサンニ、山神ノ祟ヲナサンナド云テ、民用ニ利アル物ヲ空ク土中ニ隠ヲクコト惜キコトナリトシ、多鑿出サンコトヲ云リ。コノ意ハ、上ニ述シ訳ニ通ゼズ。サテく道理ニクラキ見トゾ云ベキナレ。

〔四十七〕物価

○太平ノ久ケレバ、天下ノ人、逸樂ニ耽、奢侈ヲ事トスルヨリ、諸色ノ価、日日ニ騰貴シテ、貨幣ハ賤クナリ、人民困窮スルニ至モ、自然ノ勢ナリ〔割書…物価ノコト間窓雜録ニモコレヲ論ズ。併セ見ルベシ〕。米穀ハ、人民ノ至宝ニテ、豊饒セルヲ太平ノ驗トモスルナレ。故ニ漢ノ宣帝ノトキ、比年豊饒ニテ、穀ノ価一石纔ニ五錢、唐ノ太宗ノトキ、米一斗纔ニ三錢ナリシナド、古ヨリコレヲ挙テ、世ノ優ナル例トセリ。米穀ノ饒バ、ソノ価ノ減ズル、自然ノ理ナリ。室町將軍ノ代、天文九年ノ比ニ、米壹石ニテ六錢三分ノ価ナリシコトアリ〔割書…室町殿日記ニ見エタリ〕。今ノトキヨリ見レバ、我神祖以来、米価ノ賤シキ時モ、コレ程ナルハナカリキ。然ルニソノ比ソレニテ士大夫ノ困窮セルト云コトヲ聞ザルハ、諸ノ物価賤シクシテ、米価ニ相準ゼシ故ナリ。ソノ物価ノ賤シキコトハ、乱世ウチ続シヨリ、人皆諸事ヲ苟且ニシ、奢侈ナラザレバナリ。今ノ世、米価ノ賤キトテモ、二十金ニハ下ザルニ、ソノ少キイヤシケレバ、士大夫ノ窮スルハ、何ノ故ゾヤ。諸色ノ価、米ニ準ゼザレバナリ。或人ノ昔ノ太平ハ今ノ困窮ト云シ、サルコトゾカシ。今ノ勢ヲ以見レバ、物価ノ米ニ準ズル程ニハ、下ガタキコト必

然ナリ。ナントナレバ、人ノ奢アル故ニ、諸物皆ソノ価ヲ違フシテユケバナリ。カクアルマ、ニテユカバ、三十年四十年ノ後ハ、イカニカアラン。今ノトキニ当テ、大ニ処置ノアルベキコトナリ。其説長レバ、姑コレヲ默シヌ。

〔四十八〕男女之別

○女子ノ男子ト爵ヲ交ルハ、昏嫁シ夫婦トナリシトキ、醺スルヲ合配スルノ礼トシテ、夫婦タルモノハ、コレヨリゾ酒ヲ交飲モ妨ザルコトナリ。ソレ故ニ、夫妻ニ非レバ、親戚トテモ男女ノ別ヲ厚シ、狎親ヌコトナレバ、共ニ飲酒スルコトハアルマジキコトナリ。礼ノ坊記ニ「礼非祭男女不交爵」ト云リ。コレハ、主婦獻尸尸酢主婦ノトキ、交爵スルマデナリ。祭祀ノトキナレバ、嫌ヲ用ザル場ナレバナリ。然ルニ今ノ世ニ、或ハ人家ノ宴集ニ男女ウチマジリ交飲スルハ、尤別ナキコトニテ、妓女ヲ呼、己ニ酒ヲ侑シムル淫乱ノ風ニ異ナラズ。コレ等ハ言ニ不及コトナリ。但年始ノ慶賀ニ、一等ニ親戚相集トキ、新ヲ賀シテ男女交爵スルコトアリ。此亦アルマジキコトナリ。別ヲ主トシテ、席ヲモ同セヌ程ノコトナルニ、カクセルハ、狎親シムルモノニテ、ヨカラヌ風俗ナリ。スベテ男女ノ間ハ、別ヲ厚シテユケドモ、狎ヤスク、情好生ジヤスキモノナルヲ、コレヨリソノ心ヲ導ト云ニゾアルナレ。然レバ近親トテモ、男女ノ相祝賀スル、只一対面、一言語ノ礼節ノミニテ、爵セシムルコトスマジキナリ。中村惕斎翁モ、男女サカヅキヲカハシテ、アヒス、ムルコト、大ヤウ有マジキワザナリト云リ〔割書…女鑑二〕。誠ニ余ガ意思ニ合リ。

○礼ノ坊記ニ「朋友之交、主人不在、不有大故、不入其門。以此坊民、猶以色厚於德」ト云コトアリ。コレハ、ソノ主人ノ他エ出テ、家ニアラザレバ、言入テ、ソノ家内ニ入ザルナリ。何トナレバ、主人アラザルニ入ヌレバ、必ソノ妻ノ出テ逢コトニナレバ、遠慮スベキナリ。カク礼ヲ立ヌレドモ、猶色ニ淫スルアリト戒ルナリ。今人家ノ親交スルモノ、其母妻モ対面スル程ノ際ナレバ、ソノ主人ノ留守ニ到バ、ソノ妻必出テ、対面スルナレバ、ソノ夫ノアラザルニ、ソノ妻ト言語ヲ通ズルハ、狎ルコトニテ、アルマジキ義ナリ。然レバソノ留守ナラバ、唯家僕ニ言置テ還コト、本意ナランナレ。サテ又坊記ニ「婦人疾、問之不問其疾」ト。鄭註ニ「嫌媚略之也」トアリ。コレ亦至極ノ義ナリ。其疾ヲ訪ニ、イカナル証候ゾトコレヲ審ニ問ヌレバ、何トナク媚ナル、ニナレバ、荒マシニ問コソ嫌ヒヲ遠クル本意ナレ。コレ等ノ義モ、ヨク／＼心得アルベキナリ。

〔四十九〕火葬之非

○人死シテ、コレヲ火化スルコト、是夷俗ナリ。「秦ノ西、儀渠文康ノ国ハ、其親戚死スレバ、柴ヲアツメ、積デコレヲ焚燠シテ、煙上ヲ登遐ト云。然後ニ孝子トスル」ト列子ニ見エタリ。又「氐羌ノ虜ハ、其焚ザルヲ憂」ト荀子ニ云リ。此火化ノ濫觴ナリ。「林邑、扶南ヨリ南ノ諸国ハ、死スル者ハ、コレヲ中野ニ焚テ、コレヲ火葬ト云」ト梁書ニ見エタリ。唐ノ太宗、貞觀七年ニ、突厥頡利可汗卒セリ。国人ニ命ジ、其俗ニ從テ、焚テコレヲ葬リ〔割書…通鑑ニ見エタリ〕。元ノ世祖、雲南ヲ下シテ、賽典赤ヲ以、行省平章政事トス。時ニ雲南ノ俗、礼儀ナクシテ、親死スレバ、コレヲ焚テ、喪祭ヲナサズアリケルニ、賽典赤、始テコレガ棺槨祭奠ヲナサシメリトナリ〔割書…元史ニ見エタリ〕。是皆西南夷ノ俗法ニテ、釈氏ノ道ニ火化ヲ礼トスルモ、西域ノ夷俗ナリ。然ルニ仏道ノ盛ニ行ルヨリ、後世ハ中華モコレニ從フテ、火化スルコト多カリキ。晋城ト云処ノ風俗ハ、火葬ヲ貴ベリ。程明道、ソノ所ノ令トナラレシトキ、コレニ教諭シテ、禁止セラレシトナリ〔割書…行狀ニ見エタリ〕。又、宋ノ高宗ノ紹興二十七年、火化ヲ禁ジ、荒間ノ地ヲ置テ、貧民ニ給シ、収葬シメリ〔割書…宋史ニ見エタリ〕。又、明ノ太祖、學士陶安ト南京ノ城樓ニ登テ、尸ヲ焚氣ヲ聞テ、コレヲ惡リ。陶安曰、近世風俗ニ習ヒ、或ハコレヲ焚ケリ。孝子慈孫ノ心ニ於テ忍ザルコトニテ、恩ヲ傷、俗ヲ敗コト、コレヨリ甚シキコトハナシ、ト。太祖、此言ヲ是ナリトシテ、洪武三年ニ、民間ノ火葬ヲ禁止シ、違者ハ重罪ニ坐セシメリ〔割書…双槐歲抄ニ見エタリ〕。コレ等ノコトニテ火葬ノ多キヲ知ヌベク、其コレヲ禁止セラレシハ、誠ニ美政トゾ云ベキナレ。我 国ニテハ、文武天皇ノトキ、元興寺ノ僧、道昭死シテ、其徒コレヲ火葬セリ。此火化ノ始メナリ。ソノ後、持統天皇崩ジテ火化セリ。コレヨリ後ハ、天皇ヨリ士庶ニ至マデ、火葬スルモノ多アリテ、今ノ代ニ及デ、コノ風俗イマダ止ズ。サテく嘆シキコトナリ。コノコト、ヨク思察スベシ。人ノ父母ヲ愛敬スル孝心ヨリ、コノ身ハ父母ノ分タル形体ナルトテ、毀傷セジト慎ナレバ、我身スラカクアルニ、ソノ愛敬スル所ノ親ノ身ヲ以、死セルトテ火ニ焚ベキ者ナランヤ。棺斂ヲ謹、制度ヲ守リ、埋葬ニ心ヲ尽テ、厚ク終ヲ送ヲ礼トスルハ、其愛敬ノ止ベカラザル故ナレバナリ。王莽ガ焚如ノ刑ヲ作、陳良等ヲ焼ケルヤ、燕ノ騎劫ガ即墨ヲ圜シトキ、人ノ冢墓ヲホリ、死人ヲ焼シヲ奇人望見テ、涕泣シ怒コト十倍セリトナリ。コレソノ尸ヲ焚ヲ以、大僂トスレバナ

リ。今、人ノ子トシテ親ノ身ヲ大僂ノアリサマニ焚ヌルコト有ベキモノナランヤ。只風俗トナリヌルユヘニ、自然トコレヲ怪マヌコトニナリユキヌ。然レバ今ニ於テコレヲ禁止センナラバ、ソノ敬愛ノ道理ヲ以コレニ教諭シ、誠ニ忍ラレザル義ヲ知シメテ、コノ法ヲ禁制セバ、甚以行レヤスカランナリ。

〔五十〕喪服由来

○喪服ノ制ハ、人ノ哀慕至痛ノ情ヲ飾ヨリ起テ、其年月ノ長短ハ、親疏厚薄ヲ以節次ヲ定タルモノナリ。至テ親キ父母ノ喪ヨリ始ヲナシテ、三年ヲ至リトナス。一年ニテ、天地ノ氣モ四時カハリテ改リヌレバ、一期ニシテ終ベキナレドモ、人子ノ猶至哀ヤマレヌナレバ、コレヲ加倍セシメテ再期トスルコトナリ。コレヲ本トシテ、各ソノ親疏ニ從テ、コレヲ厚シ、コレヲ薄スルヨリ制ヲ立テ、期ノ服一年、大功ノ服九月、小功ノ服五月、緦麻ノ服三月ト、五等ニ定ルコトナリ。コノ事、礼記、三年問ノ篇、及荀子、礼論篇ニ云リ。ソノ月数モ、皆法象スルコトナリ。三年ハ天地ノ一閏ニ象ドリ、一期ハ年ノ一周スルニ象ドリ、九月ハ三時ニテ物成ニ象ドリ、五月ハ五行ニ象ドリ、三月ハ天地ノ一時ニテ氣象変ズルニ象ドルトナリ〔割書…孔穎達ノ礼記正義ニ云リ〕。サテ其麻布ノ僂ニテ其服ヲ制スルモ、ソノ喪紀ノ長短、服スル者ノ親疏ヨリ、其品ヲ定テ、斬衰齊衰ヨリ緦麻ニ至テ、ソノ制ニ差等アルナリ。其服属ニ、正服ノ外、又、義服、降服、從服等ノ別アリ。儀礼ノ喪服伝ニ、精密ニコレヲ記セリ。此聖人ノ中制ヲ以コレヲ立テ、過ルモノハ俯テ就シメ、不及モノハ企テ及シムルヲ礼制ナリ。ソレ故ニ、歴代コレニ拠テ服制ヲ定リ、唐ノ開元礼等モ、亦儀礼ノ制ニ從テ、ソノ間、一二ノ時制ヨリ改ルコトアルマデナリ。宋明ニ至テモ、亦然ナリ。我皇朝ニテハ、コレニ從ハザルコトナリ。文武天皇ノ時ニ修セラレタル大宝令ノ喪葬令ニ記ルヲ看ニ、服紀ハ一年、五月、三月、一月、七日トアリ、三代実録ニモ、本朝制令、斬衰三年ヲ降シテ一年ノ服トシ、齊衰一年ヲ降シテ五月ノ服トシ、大功、小功、緦麻ニ至マデ、皆從テ降殺ストアレバ〔清和天皇ノ貞觀十三年冬ノコトニ見エタリ〕、此月数ヲ減省スルヲ時宜トセリ。但一期ヲ五月トセル以下ハ、ソノ減ゼル次ヲ追ザルニ似テ、三月ヲ七日トセルコト殊ニ省ケリ。大宝令ハ、全唐令ヲ模スルコトト見エタルニ、服制ノ一事ハ何トテカ唐ニ擬セヌナレバ、唐令ニ喪服ノ文ナケレバ、新ニ服紀ノ一条ヲ制シテ、喪葬令ノ末ニ附セシトナリ〔割書…コノコト、三代実録、貞觀十三年十月、橘広相ノ議中ニ云リ〕。コノ制ヲ定ラレシトキ、諸臣ノ集議ア

リシ上ニ定リタルコトナランニ、何ノ拠ドコロヲ以、カク減省セルヲ不知。且ソノ親族ニ服スルモ、従父兄弟姉妹兄弟ノ子ニ七日トアルニ止テ〔割書：喪葬令ニ、父母一年、祖父母五月ト云ヨリ、ソノ次ヲ以諸親ノ喪紀ヲ云リ〕、再従兄弟ヨリハ、服著ルコトナク、ソノ外、義服、降服ノ差モコレナク、甚以疎薄ナルコトナリ。サテ仮寧令ニヨレバ、父母ノ喪ハ、官ヲ解テ自余ハ、皆休暇ヲ給バカリナリ。五月ノ服ハ三十日、三月ニハ二十日、一月ニハ十日、七日ニハ三日休暇ヲ得テ、ソレスギヌレバ、ソノ服ヲ著ナガラ官事ニ就タルナリ。儀制令ニヨレバ、重服ノ者、情ヲ奪テ職ニ従バ、服ヲキタルマデニモ非ズ。喪紀ノアリサマニモ叶ヘリ。其服ハ、細布ニテ製シテ、浅墨染ナリ。世ニコレヲ藤衣ト称スルナリ。古人ノ喪ヲ傷ル歌ニ、藤衣著タルコトヲ詠ゼシモ、アマタアレバ、ヲシナベテ著タルコトナリ。世ノ乱ニヨリテ、イツシカニ喪服キヌルコトモヲ〔ナカ〕キニゾナリヌ。但シ、関白秀吉ノ織田信長ヲ葬送セラレシトキ、諸士ヲ三千人列テ、皆烏帽子ヲ戴、藤衣著ケリト云コトモアレバ〔割書：太閤記ニ見エタリ〕、ソノ比マデハ、喪ニ藤衣キルト云形モ残ケルト見エタレ。我國家ノ服制ハ、忌服トタテ、忌ト云ヲ本トシテ休暇ヲ給リ、服ト云ハ徒ニソノ名ノミニテ、喪服キルニモアラズ、只祭祀神事ニ預ラヌマデナリ。ソノ暇タマハルモ、穢ト称シテ忌避ルヲ本意トスルヨリ、其服ト云。日数ノ中ハ、神事ヲ重コトトスルニテ、アヅカラヌナリ。其服ト云ノ日数ハ、全喪葬令ニ記セル喪紀ノ数ニヨリテ、其忌ト云。日数ハ、五十日、三十日、二十日、十日、三日ト定タレバ、ソノ三日以下、コレ亦仮寧令ニアル暇ノ日数ニ本ヅクモノナルニ、ソノ五十日ノ一条ハ、何ヨリ拠コトヲ知ラズ〔割書：〔小字追記：本ノマ、〕但シ、伸等祠ニ、古リ〔ヨリか〕死氣穢レヲ五十日忌ト云コトノアルナドニ本ヅクニテヤアラン〕。今ノ制ニテ、親族ニ忌服スレバ、甚ダ薄キコトニハアリテ、其建ル次第モ、親疎ノ差ニ叶ヌコト多シ。サテ又穢ヲ忌ト云コトニ耳思テ、哀慕ノ情ヨリ定タルコトヲ知ラズ。藤衣キルト云制モスタレ果テ、世ニシレル人モ稀ナレバ、親戚ノ恩義モウスクナリユキヌル世ニ、愈薄キニ導トゾ云ベケレ。上ルカシコキ代ノ礼制ニモ、志アラン人ヨリ云バ、最嘆シキコトニアラズヤ。古礼ノ喪制ニ復マク思ト云ド、官ヨリノ制ニ建ザレバ、私ヲ以コレヲ改定ルハ、憚アルコトナレバ、イカニセン。ソノ古制ニ志アラバ、ソノ重喪ニ遭ナラバ、姑心喪ヲ勤行シナレ。諸ノ喪紀ノ儀ハ、朱子ノ家礼ニヨリナン。当時ノ事体ニ於テ、全ク従ヒガタキ処ハ、時宜ノ用捨ゾアランナレ。浅見翁ノ著セル喪祭小記、及二礼童覽ト云書〔割書：コノ書、万治三年ノ序アリ。何人ノ著セル

ヲ記サズ。世ニ藤井蘭齋ノ編ズルト云ナレド、時代モ当ラズ、ソノ論説ノサマ、蘭齋ニハアラズ。朱子ノ学意心得テ、俸禄モ厚キ人ト見エタレバ、或ハ土佐侯ノ室老、野中伯著ノ著セルニテヤ「**ランカ**」ナド、家礼ニ拠、**喪祭**ノ礼式、今ノ宜キニ斟酌セシナレドモ、亦全ク從ヒガタキモアレバ、姑ク今**ニ行ハレ易**ヤウニ、猶又ソノ儀制ドモアルベキナリ。

〔五十一〕三年心喪

○喪祭ノ礼ハ、終ヲ謹、遠ヲ追ノ已ベカラザルコトニテ、今ノ世、古礼ニ復シ難コトナレド、勢ノ成ベキ限ハ、取行ナンコトナリ。我 邦三年ノ喪制ナキコソ遺恨ナレド、今日志アル者ハ、セメテ心喪ヲナシテ、父母、祖父母、伯叔、兄弟等ノ重シテ、近親ノ喪ヲ勤ベキコトナリ。然ルニ、熊沢氏、貝原翁ナドハ、昔土宜ニ從テ、三年ノ制ヲ立ラレザルヲ法トスベシ。近世ハ風氣益澆、人ノ氣体モ薄弱ナレバ、喪ニ勝ヌルコト不能、ソノ辛勤ヲスルコトナリガタク、中華ノ人、稟賦強厚ナルゴトクナラザル故ニ、疾ヲ生ジ、死スルニモ至ナンナレバ、時制ニ從ヲ宜ト云リ。サテ／＼陋見トコソ云ベキナレ。今、聖学ノ道開テ、幸ニコノ志アレバ、心喪スルコト何ノ成ガタキコトアラン。世俗ノ礼ニ中ザルヲ時宜ト心得ナバ、時俗ニ從フヲ主トスルニナリテ、義理ニ背ルコト毎ニ多ランナリ。サテ日本ノ人トテモ、何カ中華ノ人ト格別ニ薄弱ナルコトアルベキ。学ヲ勤テ、道理ヲ考窮スル**精神**モ、日用事業ヲ**ナス**力量モ、引立ヌレバ**ナラヌト云コト**ハコレナシ。且世ノ風氣ハ盛衰アルモノニテ、一タビハ盛ニ、一タビハ衰ナレバ、上世ヨリ次第ニフトロヘユクト云コトハ、ナキ筈ナリ。今ノ人ニモ強盛ニ氣ヲ稟タルアリ。薄弱ニ稟タルアリ。ヲシ並テ弱薄トハ云ガタシ。固氣體ウスキ人、喪ニ勝カネテ死スルモアランナレド、ソレハ其人ニヨルコトナリ。今、程朱ノ学ヲセザル人ニモ、少ク義理ヲ合点シテ、三年ノ喪ヲ行ヒシモ、タレカレコレアリケル。マシテヤ朱学ヲスル者、ナド力行ハズヤアルベキ。カクナル重礼ヲバナシ得ヌマデモ、引立テ勤行ヘトコソ勤ベケレ。然ルヲ行ハザルヲヨシト教ルハ、何ノ義ゾヤ。大抵世ノ風俗、惰弱ニナリユキ、何ゴトモ便利ニスルヲ好テ、喪ノ一事ナドハ甚ナシガタク、苦キコトト思処ヘカク告ヌレバ、愈ウスキニ導コトニテ、ソノ志モ愈荒テ、私慾モ益禁ジ得ザルニ到ンナレバ、コノ説極テ從フマジキコトナリ。

〔五十二〕忌日

○凡死セル忌日ハ、一歳二只一日ナリ。某ノ月、某ノ日ニ死スルナレバ、毎年ノ某ノ月、某ノ日、忌日ナリ。コレヲ檀弓ニ、喪ノ余ナリト云リ。故ニ追哀ノ心、コレヲ厚シテ、誠敬ヲ以忌祭ヲナスベキナリ。然ルニ我 邦、月忌トテ、某ノ日ニ死スレバ、某ノ日ヲ毎月忌日トナシテ、祭奠スルコトニナリヌルハ、理ニ当ヌ非礼ナリ。某ノ月、某ノ日ト、ソノ時ヲ忌日トスルニテゾコノトキナリシト感ズルヨリ、追哀モ最深テ、誠意モ切ナルコトナレ。然ルヲ月ゴトニ某ノ日トスレバ、祭祀モ屢スルコトニテ、神ヲ瀆ニナリ、誠敬モ專一ニアラザレバ、反テ忌日ノ本意ノウスクナルコトナリ。然ルヲ貝原翁ノ説ニ、本邦三年ノ喪ヲ行ハザル故ニ、月月ニ忌日トシテ薦奠セバ、厚ニ從ニテ宜トセルハ、コレ亦義理ノ明ナラザル陋見トコソ云ベケレ。極テ是トシ從フマジキコトナリ。

〔五十三〕忌日素饌

○忌祭ニ魚肉ヲ薦ズ、淨饌ヲ奠スルハ、時俗ノ仏法ニ從フモノハ左モアリヌベケレド、古礼ヲ知、儒法ヲ用ル人ニ、淨饌ヲ用テ是ナリトセルアリ。ソノ意ハ、生者忌日ニワイテハ、追哀スル故ニ、祖考ノ神モ、ソノ心ヲウケテ、魚肉ヲ嗜得ラレヌコヽロト云ルアリ。或ハ生者ノ素食スル日ナレバ、魚肉ヲ薦ムルハ便ナラズト云ルアリ。コレ等皆理ニアタラヌコトナリ。何トナレバ、忌祭トテモ、ソノ祖考ヲ祭上ハ、家ノ有無ニ随テ、ナルベキ限ハ、盛饌ヲ以コレヲ薦ン心ナレバ、肉食ノヨキ味アル物ヲスヽムルコソ本意ナラメ。ソレニ素饌ノ淡味ナルモノヲ薦レバ、薄品ヲ以祭ト云モノニテ、僂末ニスルニ近。コノ日ハ、鬼神モ肉食ヲ嗜ミ得ラレマジトスル説ハ、鬼神ノ理ニ暗コトニテ、生者ノ便ナラズトスルハ、誠心ノウスキ俗情ト云ベキナリ。然ルニ呂東萊ノ家範ヲ見ニ、曾祖以下ノ忌日ニ、家ノ旧俗ニ從、素饌ヲ用ルノ言アリ〔割書…家範ハ東萊文集ノ中ニコレヲ載リ〕。コレヲ觀レバ、呂氏ノ家ニハ、忌祭ニ肉食ヲ用ラレザリシト見エタリ。然レバ独呂氏ノミナラズ、他ノ士大夫ノ家ニモ然セルモアランナレ。又、朝鮮ノ李退溪「答金惇叙書」ニ「三年喪祭、亦皆用肉。況忌祭何疑ン。今之喪与忌、皆不用肉。流传成習。有能不拘流俗而用之以礼者、何不可之有」ト云ルナレバ、朝鮮ノ礼義ヲ知ル国トテモ、習俗亦然リト見エタレ。然レドモ義理ニ叶ヌコトナレバ、時俗ノ非議ヲ願ズシテ、肉食ヲ奠シテ善ナランナリ。

〔五十四〕急難相救

○同室親戚ノ人、鬭争スレバ、己ニアヅカリ止レヌ実義アレバ、汗水ニナリテコレヲ助救ハ、当然ノコトナリ。若郷隣ノ親戚ニモアラヌ人ナレバ、己ニアヅカラザル故ニ、ソノ急難ニハ往テ救ウニ及ザルナリ。孟子ノ「同室ノ人、鬭フコトアレバ救之。郷隣ニ有鬭者、雖閉戸可ナリ」ト云ル、コノコトナリ。然ルニ隣保ニハ、患難相救フノ義アレバ、郷隣トテモ、亦往テ救ザレバ、不叶コトアルベシ。ソノ郷ニ親族アルヤ、又ハ親交ノ人モアレバ、コレヲ聞テ、只看棄ヲカレヌコトモアルベシ。朱子ノ語類ニ「郷隣ノ鬭ヒニ、親戚兄弟、其中ニアラバ、一例ニ不救アルベケンヤト問ケルニ、有兄弟、固当救。然事也、須量大小。若只是小小鬭欧、救之亦無妨。若是有兵戈殺人之事、也只得閉門不管而已」ト答ラレシ、ソノ曲折ヲ云ルナリ。但シ、ソノ間ニ父兄伯叔等ノ近親アラバ、兵殺ノコトトテモ、何ゾ往テコレヲ助救フコトナカランヤ。親戚トテモ、又親疏ノ差別アルベケレバ、或ハ往ズアルベキモアラン。コレニ比シテ云ニ、隣家ハ他人ナレドモ、又郷隣トハ異ナルコトアリ。隣家ニハ、親ク常ニ交通スルアリ。一面ノ知ルニテ、年始寒暑ノ問尋ノミ相通ズルアリ、平生不相往来、ソノ面ヲ知ザルアリ。同ク官ニ仕ルアリ、処士モアリ、陪臣モアリ。然レバ隣家ニハ、親疏厚薄ノ差別アレバ、其相救フ□□ニモ親疏厚薄ノ分アルベシ。ソノ親交スルモノハ、小ノコトハ云ニ及ズ、盜賊ノ入ヤ、或いハ急難ノ兵ヲ受ル等ノ変アラバ、往テ救ハデハ叶ザルコトモアルベシ。若隣ヲ報ルノ鬭ナラバ、朋友ノ隣ニハ兵ヲ以守ノ義モアレバ、コレ又救ンナレドモ、故アル兵難ナレバ、或ハ私党ヲタツルニ近キ嫌ヒアランナレバ、只己ヲ守テ手ヲ出サヌニテアランナレ。若ソノ一面ノ知ルノミナラバ、盜賊小小ノ難トテモ、コレヲ救フニ及ズシテ、急難兵殺ナドハ、固戸ヲ閉テヨロシカラン。若朝ニテ事ヲ共ニスル程ノ同僚ナレバ、常ニ親交セズトモ、其盜賊等ノ難ハ、相救フコト、義ニワイテ然アルベケン。ソノ外ハ、只ソノ親疎厚薄、ソノ事ノ曲折ニ因ベキナレバ、膠泥シテ、カクナスベキトハ、定ガタキコトナラン。

〔五十五〕豪傑 灑落

○今ノ俗樂者流ノ檢束ヲ惡モノハ、人ノ礼法ヲ守ラズ、言行ノ放蕩ナルヲ豪傑ノ士トナシ、雅量アリト称シ、恭謹節儉ニシテ、礼義ヲ守モノヲ小節ニ拘ル無器量ナル士トナシテ、往往ニコレヲ笑。サテく云シカタナキクセゴトナリ。豪傑、イカニ心得違タルニヤアル。凡豪傑ト称スルハ、千人ニモスグレテ、大ナル技量アルヲ云コトニテ、区区タル名利富榮ヲ浮雲ノゴトク視下シ、貧賤患難ニソノ節

操ヲ奪レズ、何ゴトモ義理ヲ目当ニシテ、高明正大ナル人ヲゾ云ナレ。左アランニハ、必小節ヨリコレヲ慎守リ、恭讓ニシテ、矜傲ナラズ、言行ヲ省修ルヨリナラデハ、何トシテカ其地位ニ至ベキヤ。彼ガ放蕩ノ唐名ト心得タル豪傑ノ血氣ノ私慾ニ任セルモノ、日ヲ同フシテ云ベキニアラズ。朱子ノ所謂「真正英雄人、却從戰戰兢兢臨、深臨履薄処做将来、若是血氣飽豪、却一点使不著也」トアルコノ言、味玩ビテゾ知ベキナリ。

○今ノ人、意氣ツラ／＼トシテ、物ゴトニ拘滞セズ、礼節モ極テ簡易ナル者ヲ称シテ、灑落ト心得ヌルハ、大ニ誤リ。灑落ノ二字ハ、元来、黄山谷ノ周子ヲ称スル語ヨリ始リテ、深遠自得底ノ氣象ヲ以云コトナル由、朱子云リ。左アレバ、誠ニ胸中ニ一点ノ俗氣ナク、一点ノ私慾ナク、義理ノマヽニ磊磊落落タルベキヲコソ云ベケレ。今ノ人ノ胸中ニ、草莽ノ乱荒タルゴトク、私意ノ累、物ニフレ事ニ応ジテ生ジケレド、唯事ヲウチナガシ、氣マヽニ拘ラヌモノ、何トシテカソノ地位ヲ得ベキヤ。

〔五十六〕病書死字

○凡百般ノ疾、外邪ノ犯ニアラズ。内因七情ノ上ヨリ、運行滞リテ生ズルモノハ、心氣ヲ安静ニシ、思慮ヲ省、妄想ヲ止レバ、氣定リ、心安ジテ、疾ノ愈ヤスク、ソノ驗ヲウルコト、草根樹皮ノ及所ニアラズ。或血氣勞傷スルヨリ起ニモ、心ヲ安静ニスレバ、氣モコレニ從フテ調和シ、助ヲウルコト多ナリ。ソノ心ヲ安ズルニ、一ノ良法アリ。昔、或人疾ニ臥ヌレバ、即胸前ニ於テ、時トナク手ヅカラ死ノ字ヲ書セリ。カクアレバ、百般ノ思慮俱ニ息テ、コノ心安静ニナルヲ得タリ。無上ノ妙法ナリト云リ。王節齋、コレヲ論ジテ云、病ヲ慎ザレバ、死必至ヌ。コノ理ニ達スル者ハ、必ヨク心ヲ清シ、己ニ克、凡百謹慎シテ、疾モ痊ヲ獲ベシ。世人、病ニ遇テ、猶情ヲ恣ニシ、自戕賊スル者ハ、固死ヲ畏コトヲ知ザルナリトナリ〔割書・明医雜著二見エタリ〕。コノ言ハ、死ヲ畏ル故ニ、ヒタスラ死ノ字ヲ書テ、コレヲ忘ザルヨリ、疾ヒヲ慎ムコトヲ云リ。固コノ理アリ。然ルニ死ノ字ヲ書スレバ、死ヲ忘ズシテ、死スルヲ期シ、万般ノ私意邪念モ起ラズ、疾ヌレバ必死スルヲ待意ニナリテ居バ、病ヒヲ悩憂コトナク、泰然ト天ニ任セテ安ズルナレバ、自然ニ心モ安静ニナリ、情ヲ縦ニスル私慾モ起ラザレバ、自疾ヒヲ慎ムニモナリテ、血氣モ和順シ、復スベキ疾ナレバ、自痊ンナレ。若疾ノ甚シクアルモ、苦惱ムニ到ズ、死ストモ安ンジテ逝去ンナレバ、誠ニ病中ノ良法トモ云ベケ

ン。死生ノ道ニ達シテ、天命ヲ待程ノ人ニテアレバ、カクアルヲ待ザレドモ、左アラヌ者ハ、コノ心得ニテ、安心ヲ得ンモノナレ。

〔五十七〕三社託宣

○俗間ニ、三社ノ託宣ト云テ、天照大神宮、八幡大明神、春日大明神ノ託語ヲ世上ニ流布シ、三社ノ神、倭姫皇女ニ告ラル、ト云伝。其辞、人ノ遍ク知ル所ナレバ、コヽニ記サズ。ソノ文辞ノ鄙俚ニ、義理ノ浅陋ナルコト、云シカタナシ。世俗ノ尊信シテコレヲ伝ハ、義理ニ闇、不学ナレバ、左モアリヌベケレド、中江藤樹翁ナドモ、コレヲ信ゼシト見エテ、ソノ託宣ヲ著述ノ書中ニコレヲ挙テ称スルハ、イカニゾヤ〔割書…翁問答等ノ中ニ云リ〕。心得ガタキコトナリ。井沢氏ノ俗説弁ニ、正史、実録ニコレナシト信ゼズ。無住ガ著シケル沙石集ニ、聖徳太子ノ辞ナリトシテ、謀計云云ノ神託ヲ記スレバ、コノ託宣、三ナガラ厩戸太子ノ神託ニ擬シテ、妄作セラル、ト云ケル。其信ゼザルハ、コレヲ得ルナレドモ、猶厩戸太子ノ詞トスルハ、五十歩百歩ノ間耳。何トナレバ、厩戸太子ノトキナドハ、アガレル世ニテ、文辞モ中華ニ近、質実ナレバ、カク拙辞ハ決シテ人ノ言出サヌコトニテ、厩戸ノ述ラレケルト云モ、極テ妄誕ナリ。憶ニ、無住法師ノ比ノ文辞ニ拙ク、義理ヲ知ザル仏者ノ忘作スルニテアランナレバ、士大夫タル人、カマヒテコレヲ尊信スルコトナカレ。

〔五十八〕当禁之書

○明ノ魏莊渠、社学ヲ主トリケルトキ、正学ヲ崇ブコトヲ述テ、書肆ニ禁止スベキ書ヲ挙タル中ニ、二曰、「曲本誨人以淫」ト云テ、各舗ニ責テ、発売スルヲ不許、若再発行スレバ、重治ルニ以罪トナリ〔割書…魏莊渠遺書ニ見エタリ〕。コノコト甚当リ。今、世ニ毎年新刻ノ小書アリ。大抵曲本ニテ、淫猥ノ卑事ヲ談ジ、人ノ心術ヲ害スルコト多。或ハ無益ノ雑談ヲ記、一場ノ戲謔ヲ示シ、人心ヲ放蕩スルコトノミナリ。コレ等ノ書ハ、官ヨリ堅コレヲ禁ジテ、発行ヲ不許、ソノ板ヲ割、ソノ書ヲ焚、長コレヲ断ナンコト、名教ヲ愛、風俗ヲ正ノ一助ナラン。

〔五十九〕偽書

○世ニ和論語トテ、清原良業ヨリ宜賢ニ至マデ、其家代代書記ヲケル古人ノ辞トテ、上世神代ヨリ、天皇以下、士庶、婦女、僧侶ニ至マデノ嘉言ヲ広輯タルモノ

ニテ、凡十卷アリ。其書、寛文中ニ梓行シテ、今ニワイテ世ニ行ル。初二清原家ノ序アリ。終ニ長嘯子ノ跋アリ。惕齋翁、蘭齋翁ナド、ソノ書ヲ信用シ、其藤原為世ノ、衣笠家良ノ、順徳院右兵衛佐ノ、二条院讃岐ノ、ト云タグヒ、数人ノ語ヲ取テ、ソノ著述ノ書ニ引用ケリ〔割書…女鑑、閑齋筆記等ノ中ニ〕。二子ノ引ル外ニモ、彼此古賢ノ説ニモ背ズ、義理ニ叶ルトスルモ、コレアリ。ソレ故ニ、女鑑ニ「和論語ヲ見レバ、公家、武家、男女トモニ、經典ヨミタル人ヲ、カリト見エタリ」ト云テ、コレヲ称セリ。然ルニ、コノ書ハ、延宝寛文ノ比ナル近江州堅田ニ住ヌル土民、六角某ト云ケル者ノ偽作スルモノナリ。彼頗文字アリテ、或ハ旧記ヨリコレヲ取、或ハ新ニコレヲ杜撰シ、皆某某ノ人ノ言ニ擬シテ云出セルナリ。ソノ二条院讃岐ガ語ニ「人ハ生日ニハ賀スマジキモノナリ。コノ日ハ、母ノ苦勞ヲ思ヌレバ、歡ニ忍ズ」トアル、全是、程伊川ノ語ヲ模シテ云シナリ。コレニテ皆推知ベキナリ。誠ニ古人ノ所謂「一人伝虚、十人伝実」ト云コトニテ、ソノ欺ル、ハコレヲ恕スベケレドモ、ソレヲ偽作セルハ、天下後世ヲ欺キ、人ノ惑ヲナサシムルコト、ソノ罪莫大ナリ。又、何某ガ著セル鎌倉実記ノ中ニ、金史別本ト云書ヲ引テ、源義経、高館没落ノ後、死ヲ免レテ中華ニ到、金ノ章宗ニ仕シト云コトアリ。ソノ後、コレヲ信ジテ、安芸ノ儒士何某ガ、桂苑権儲ノ一書ヲ著シ、ソノ中ニ義経ノ中華ニユカレシコトヲ金史別本列将伝ニアルヨシニテ、ソノ事ヲ人ノ記セシアリト云。蝦夷ニ到ラレ、ソレヨリ金ノ地ニ往シナラントセリ。然ルニ、金史別本ト云モノ、元コレナシ〔割書…続文献通考、国史経籍志、明史芸文志等ニ、ソノ書名コレナシ〕。伝聞、ソノ実紀ヲ作レル者、コノ一条ヲ偽撰セルトナリ。既ニ此書ニ就テ、コノコト世ニ流布スレバ、書籍ニ博カラヌ人ハ、金史別本ヲ実ニアルモノトナサンナレバ、誰カソノ欺キシヲ知ランヤ。亦コレ一盲衆盲ヲ引ニゾナレバ、コレ亦弁ゼズハアルベカラズ。明ノ方遜志云ルハ、「人之著書、上欲以淑来世。其次亦欲垂声光於不朽、而偽是書。既不足以淑諸人、而又不能少見其名。果何為哉」ト。誠ニ然ナリ、誠ニ然ナリ。

〔六十〕 今之儒流

○儒ハ濡也。徳ヲ以身ヲ濡ヲ云トシ、又天地人ニ通ズルヲ儒トス、ナド、モアリテ、天地人倫ノ道ヲ知、身ヲ修、人ヲ治ル者ヲ称スルコトニテ、上ハ人君ヨリ、下ハ官司ニ至マデ、道ヲ以己ニ行ヒ、事ニ施ス者ハ、儒者ト云モノナリ。故ニ堯舜禹湯文武ノ君ヨリ、穆契伊傳周召ノ臣ニ至マデ、実ノ儒者ナリ。然ルニ秦漢ノ

世、聖学ノ衰テ、道ノ時ニ明ナラヌヨリ、道芸ノ士ヲ儒ト称スルコトニナリテ、司馬遷、班固ナドモ、儒ヲ九流ノ一ニ入テ、只書籍ニテ聖人ノ教ヲ学モノヲ耳、儒ト心得ケリ。然レドモ、漢以後、学問日ニ盛ニナリテ、歴代ニ学問セザル人ハナク、学問ヲ以人才ヲ追ルニ因テ、賢俊ノ士モ輩出シ、士大夫皆義理ヲ知、学術アリテ、ソレゾレノ職ニモス、ムコトニテ、儒ト云者流ハナキナリ。朝鮮モ、皆学問シテ、道理ニ明ナル故ニ、中華ニカハルコトナキナリ。我 日本ニテモ、中世ノ比マデハ、学問ナベテ士大夫以上ニアリテ、地下ニ墜ズ。ソレ故ニ、当時文籍ノ職ナル人モ、他ノ職ノ士大夫ヨリ転任シ、文職ヨリモ他ノ官ニ任ズルコトニテ、経学コソ開、子歴歴ノ官人、学問セザルハナカリキ。菅原大臣ノ学生ヨリ昇進セラレシニ就テモ、其トキノアリサマ、知ヌベキナリ。然ルニ、室町家ノ比ニナリテ、天下大ニ乱テ、士大夫、皆兵革戦闘ノ間ニ生テ、書籍ヲ読、文字ヲ学ベル人、甚稀ニナリユキ、イツシカニ文字典籍ノワザハ、唯僧ノミスルコトニハナリヌ。アサマシキコト、云シカタナシ。我 神祖興給ヒシヨリ、文運大ニ開ケ、学問ノ道、盛ニ起シナレドモ、ソノ余習猶アレバニヤ、書籍ヲ読テ、専学問スルハ、只民間庶人ニアリテ、官ノ士大夫ノセヌコトニナリ、仕宦スルモノ、用ニモアラヌ間事業トナリテ、世ニ志アリテ、学ヲ勤、道ヲ唱ルモノハ、一ノ者流トハナリヌ。故ニ、人ヨク学問スル者ヲ儒者ト呼、自モ儒者ヲ以称トナシ、医者ノ、社人ノ、ト云属ニ並テ、一別タル者ニ、世俗ノ思ニハナリヌ。今、書生ノ別タル上ニテモ、儒者ト称シ、又職ノ名トスルハ、当ラヌコトナリ。或ハ古ノ称ヲ冒テ、官ニ仕ル書生ハ博士ヲ以呼カ、或中華ニ擬シテ、学士ナド、称シテ可ナラン。

○今ノ世、書ヲ読、道ヲ学ブ人ヲバーノ芸者ト心得テ、医ト者流ニ同ク、職アル人ノ分ニスルハ、固道ノ明ナラザル処ヨリシテ、秉彝ノ道、人ノ学ビ知テ、コレヲ人倫ノ間ニ行ザレバ、叶ヌコトニテ、聖賢ノ教アリ、学問ノ業アルヲ知ズ。コレヲ日用事務ノ外ナルコトトスレバナリ。道理ヲ知、聖学ニ志アル者ヨリコレヲ云バ、最口惜、又嘆シキコトニアラズヤ。道ノクラキ故トハ云ド、亦書生タルモノ、自トル所ニテモアルナレ。何トナレバ、経書ヲ玩、義理ヲトキヌレドモ、大抵ハ、只文字訓詁ノ上ノミニテ、書物ジリニナリ、心ヲ内ニ用テ、研窮シ、修省スルニアラネバ、行ヒ得タル徳義モナク、家庭ノ間ヨリ、上ニ事、人ニ交ニ至マデ、道知ヌ人ニ勝ル一節モナシ。マシテヤ。詞章ノ学ヲ業トセル輩ハ、志趣殊ニ下リ、自モ芸者ヲ以居テ、ソノ行モ愈修ザレバ、人ニ尊ラレヌモ理ナラズヤ。然レバ今書生タル者ハ、実意ヨリ実学ヲナシ、其天爵ヲ修テ、道ヲ以自尊フシ、己

ヲ勉ヨリ教ヲ人ニ推、明日ニモ用ラレナバ、出テ行ベキ具アラシヲ思フテ、コレヲ励シ、道知又時俗ヨリ、牛ト呼モ、馬ト呼モ、其呼ニ任セテ時ヲ知、常ヲ守、命ニ安ゼンコソ本意ナレ。

○今儒流ヲ一芸トスル習俗ヨリ、官ノ士大夫、一等ニ学問ヲ無用ノ業ト心得テ、学ル人甚ダ稀ナレバ、學術ヲ以言行ヲ修ルヲ知ラズ、事業ニ施コトモナキニゾナリヌ。今コレヲ改メントナラバ、士大夫ノ選挙ヲ皆學術中ノ人ヨリコレヲナシ、ソノ人才ヲ以各ソレゾレノ官職ヲ授、文官ヨリモ吏職ニス、メ、吏職中ヨリモ、文官ニ遷ナレバ、コノ風習變ジテ、一等ニ士大夫皆学問アリテ、事ヲ務ルニナリ、學術モ用ニ適コトニナリナン。カクセンニハ、官ヨリ命ヲ下シ給テ、士大夫タル者ニ、皆ソノ子弟ニ学問ヲ励サシムルニアリ。左アラバ、都下ノ間ニ於テ、講学ノ書院ヲ数箇所ニコレヲ建テ、各ソノ講官ニ教授ト助教トノ二員ヲ置、ソノモヨリノ官人ノ子弟ヲ其学問所ニ入シメテ、コレニ学シメ、サテソノ学成テ、コレヲ試挙ルニ、二科ヲ設ナン。一ニハ孝廉ノ行ヲ主トシテ經術ノ科ヲナシ、一ツニハ歴代ノ史籍典故ニ通ズル吏務ノ科ヲナシ、既ニコレヲ挙ナバ、ソノ学行ノ高下トソノ門地ノ貴賤トニ随テ、ソノ相叶ル官職ヲ以コレニ授ケナン。サテ職務ノスグレタル者ハ、コレヲ拔擢シ、職分ノ劣ル者ハコレヲ黜ケン。カク法制ヲ定テコレヲナサバ、二十年三十年ノ間ニハ、人才モ世ニ輩出シ、学業モ經濟ニ出テ、吏務モ殊ニ觀ベキコトアラン。但コノコト能行レガタカラント思コトモアルベキナレド、官ヨリコレヲ令シテ、学行ノ上ヨリ人才ヲ拔ラルヲ知ラバ、誰カ学問ヲ励シ、德行ヲ勤ザランヤ。ソノ学堂ノ設ヤウ、教授ノ置ヤウ、選挙ノ為方等ハ、又皆ソレニ曲折アルコトナリ。姑コ、ニ略シヌ。カクナリナバ、士大夫ノ風俗モ格別ニ宜クナリ、人人学ヲ嗜、身ヲ修メ励スニナレバ、放蕩頑鈍ノ輩ハ、世ニ容ラレヌニナリテ、ソノ恥ルコトヲ知テ、面ヲ革ムルニアラデ、ソノ心ヨリ善ニ化センナリ。若ソノ学問ヲ勤ズ、放逸非行ヲ改メザラバ、其官長ヨリソノ父兄ヲ警諭シメ、既ニ仕ル者ナラバ、ソノ長官コレヲ誠警シ、猶又改ズアラバ、コレヲ官ニ言上シ、或ハコレヲ黜降シ、或ハコレガ俸禄ヲ奪ナン。カクアラバ、勸善懲惡ノ驗モアリテ、盛化モ殊ニ限ナカランナレ。

〔六十二〕 古人詠歌

○坂上是則ノ歌ニ

フカ緑常盤ノ松ノ蔭ニ居テウツラフ花ヲヨソニコソミレ〔割書〕後撰集ニ見エ

タリ」

又、凡河内躬恒ノ歌ニ

常盤ナル松オバオキテアジキナクアダナル山ノ桜ヲヤ見シ〔割書：家集ニ見エタリ〕

又、紀貫之ノ歌ニ

白雪ハフリカクセドモ千代マデニ竹ノ緑ハカハラザリケリ〔割書：家集ニ見エタリ。下同ジ〕

又

千代ニタゞ竹ノオヒタル宿ナレバ千グサノ花ハ物アラナクニ

コレ等ノ和歌ヲ吟詠スレバ、松柏ノ凋ニ後ナル君子ノ操ヲ知り、輕薄ナル小人ノ頼ナキ有サモ想ヤラヌ。

○大政大臣貞信公ノ歌ニ

君ガタメイハフ心ノフカケレバヒジリノ御代ノアトナラヘトゾ

コレハ、天曆帝ノ皇子ニテマシマシケルトキ、貞信公ヘ御往還アリシヨリ、御學問ヲス、メ奉リテ読ルナリ。

天曆帝ノ御歌ニ

教ヲクコトタガハズハ行末ノ道トヲクトモ跡ハマドハジ

コレハ、貞信公ヘ御答ニテ読玉歌ナリ。共ニ、古今六帖ニ見エタリ。誠ニ大臣トシテ、カクス、メ給ヒケル、ソノ志ノ親切ナル、帝ノソレヲ受玉ヒテ、カク御返ノアリケル、格別ノ御心カシ。今、千載ノ後ニ生タル吾儕ゴトキモ、イカバカリソノトキノサマ、想ヒヤラヌ。後世、聖學ノ明ニ開タル代ニシアレバ、輔佐ナル貴臣モ、カ、ル心得ノアラレ、人君タル御身ニモ、カクアル御心ニマシマシテ、コノ聖學ヲ深學玉ヒテ、正大ノ道モ天下ニ大ニ行レンナラバ、誠ニ目出度世ノ例ニモアラナレ。

○藤原実隆ノ歌ニ

世ヲ救フ人ダニ思道シアラバ今モ昔ヲカヘサザラメヤ〔割書：雪玉集ニ見エタリ。下同ジ〕

又

遠シタフヒジリノ御代モ君ガ代ニカヘサバカヘス道モ有ケリ

又

鳥ノ跡ニ殘世見テモ代代ノミゾトビタツバカリ昔シ恋シキ

○惺窩先生ノ歌ニ

身ヲシレバ老ヌランマゾ愧カシキ人ノ人ナル道マドフ世ニ〔割書：惺窩和歌集
ニ見エタリ〕

コレ等ノ詠ゼシ歌ヲ吟ジテ、ヨク／＼其意ヲ玩ブベキナリ。

寓意録卷之下